

2025年度 がん登録塾
部位別セミナー

第9回

土曜・午後

部位別セミナー

乳腺のがん



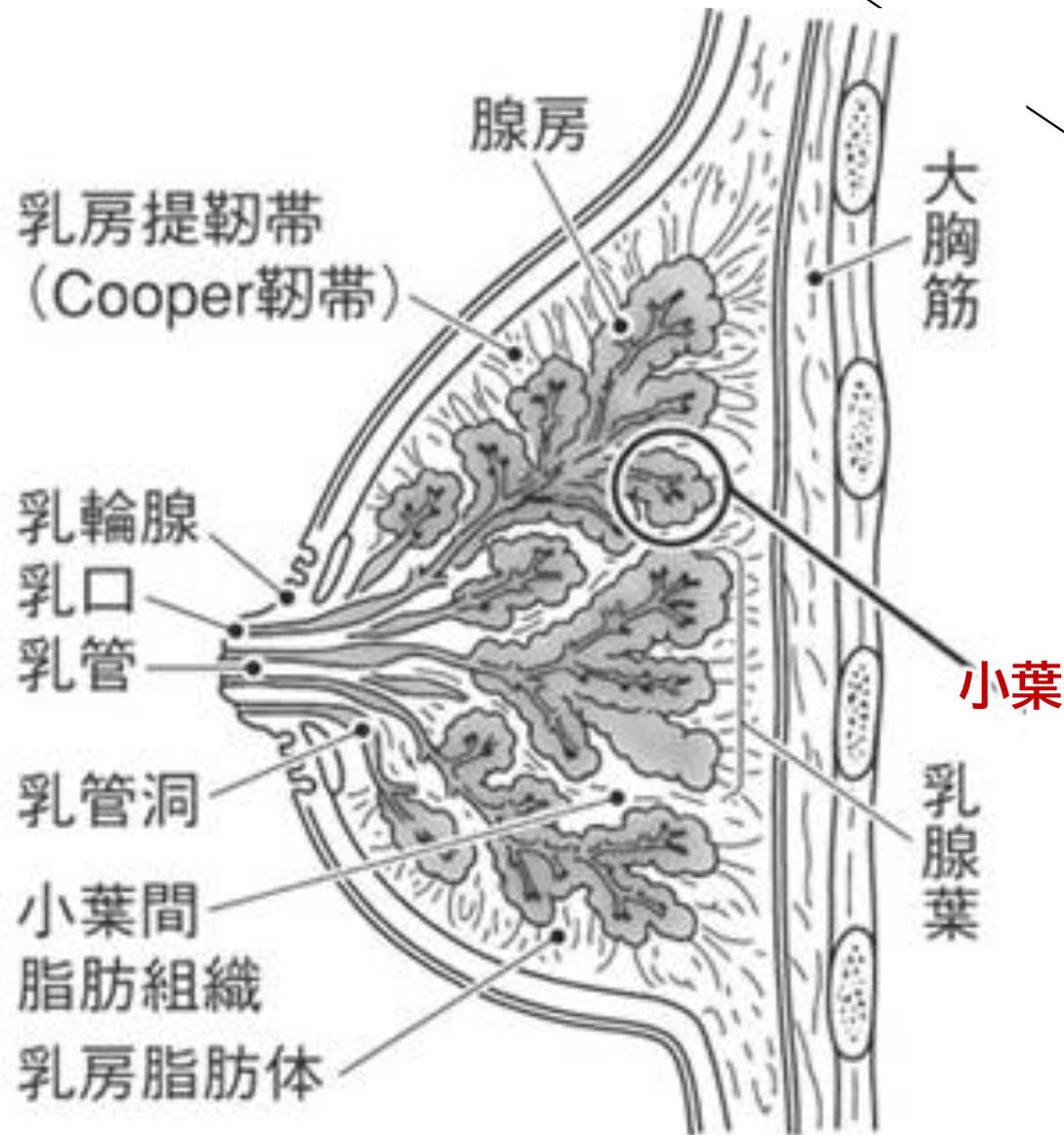
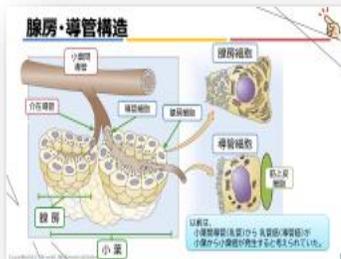
JA長野厚生連 佐久総合病院
総合医療情報センター

西本 寛

乳腺の解剖・生理

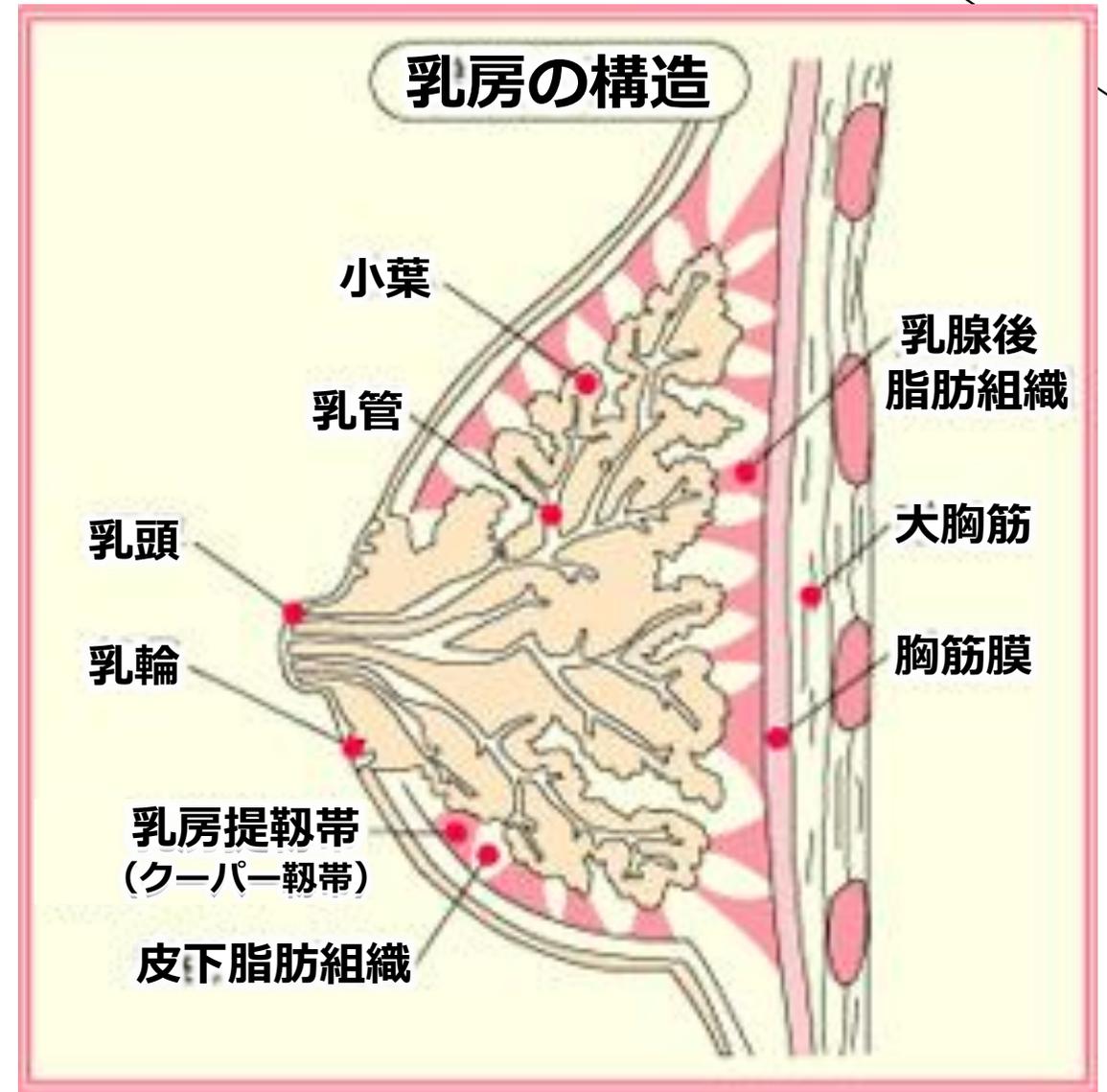
乳房の構造

- 乳汁を分泌する腺房が集合して、小葉を形成する。
- 乳汁は乳管を通じ、乳頭から分泌される。
- 小葉の周囲は、脂肪組織。



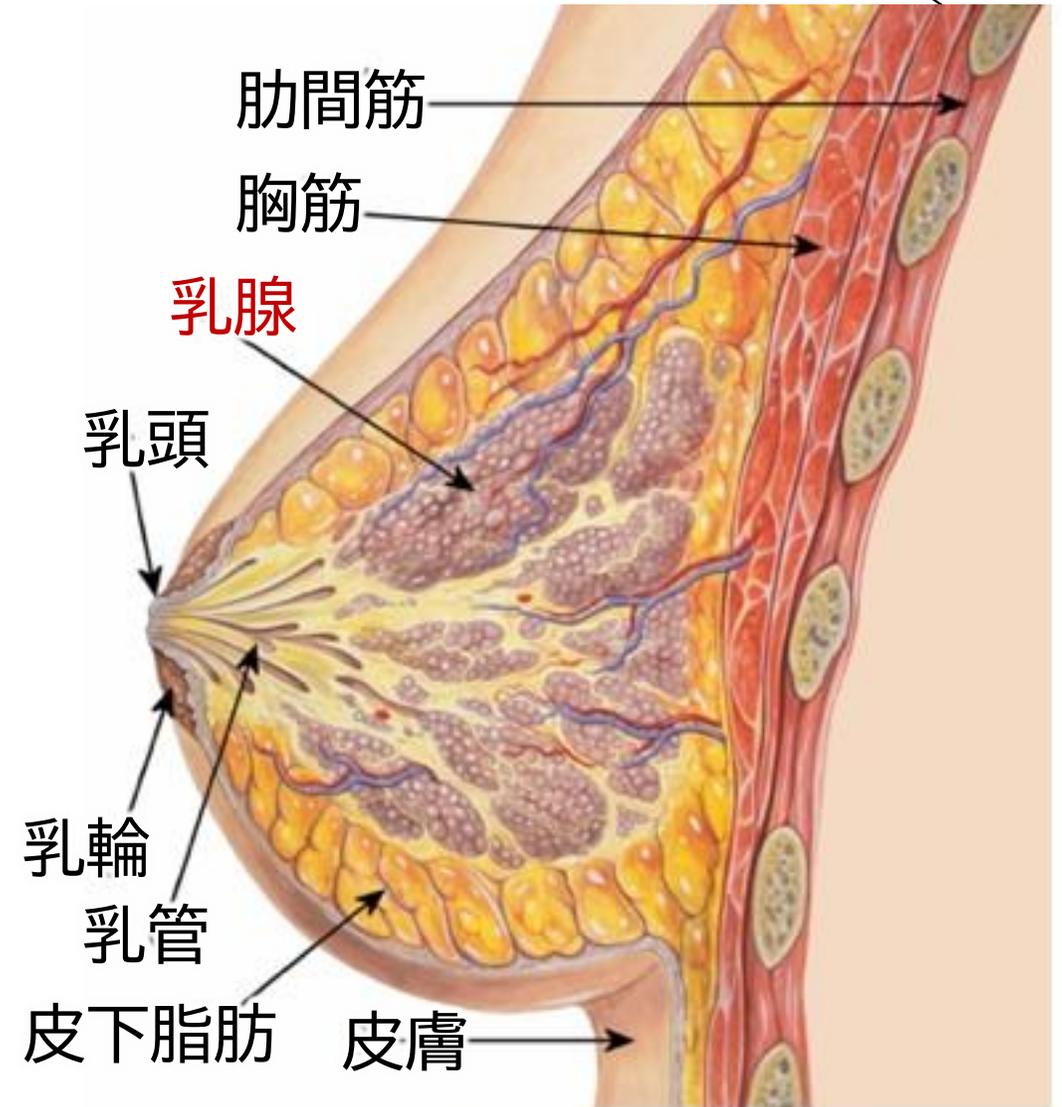
乳房の構造

- 皮膚
- 胸筋浅筋膜
- 皮下脂肪
- 乳腺
- 後脂肪組織
- 胸筋深筋膜
- 大胸筋
- 肋骨・肋間筋



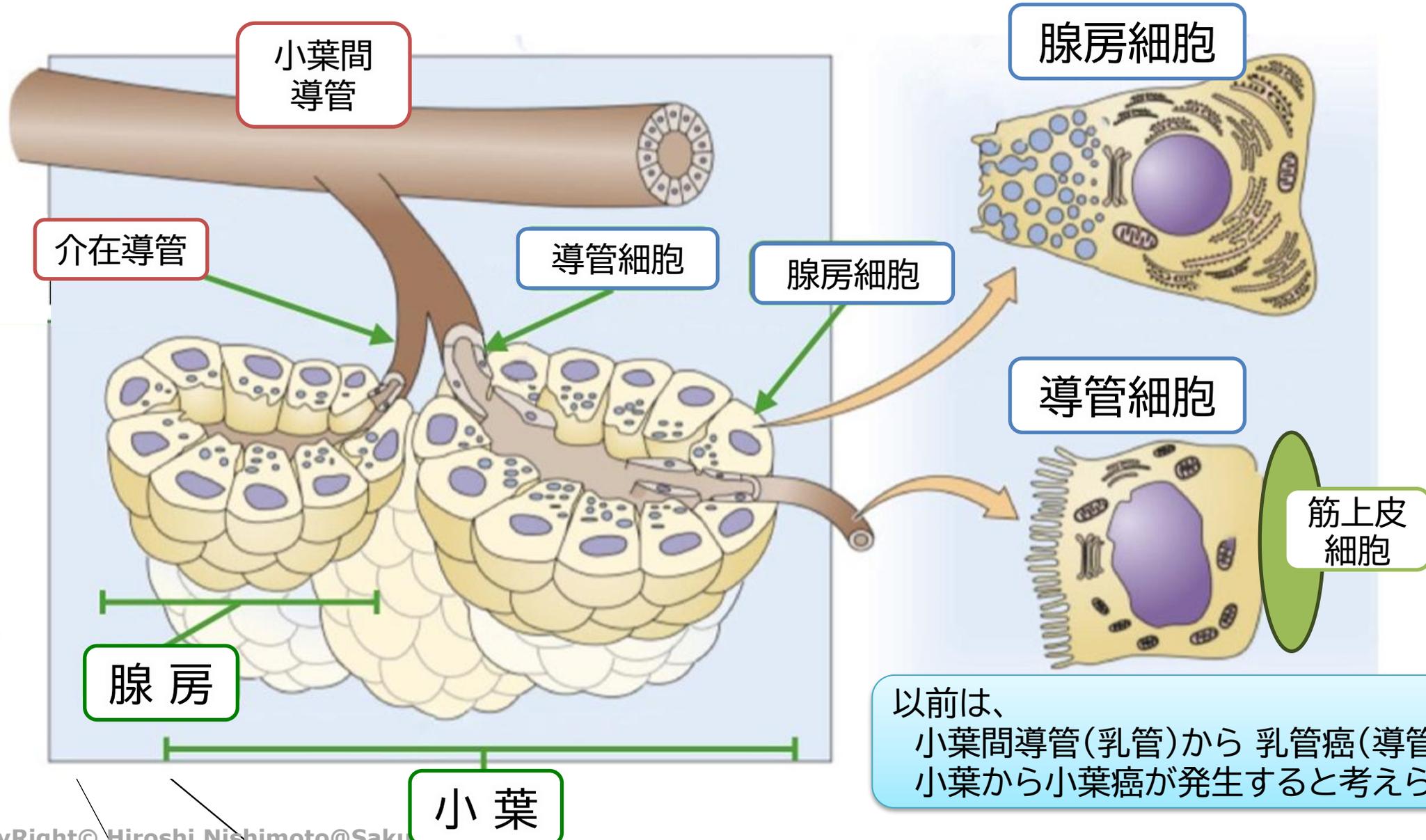
乳腺の構造

- 皮膚
- 表皮
- 真皮
- 皮下脂肪
- 乳腺
- 胸筋
- 胸壁
- 胸筋
- 肋間筋
- 肋骨



Source: Patrick J. Lynch, medical illustrator.
<http://patricklynch.net/portfolios/medical-illustration/index.html>

腺房・導管構造



以前は、
小葉間導管(乳管)から 乳管癌(導管癌)が
小葉から小葉癌が発生すると考えられていた。

乳腺の組織

●腺葉→小葉

●小葉内に

■腺房

腺房上皮

■乳管

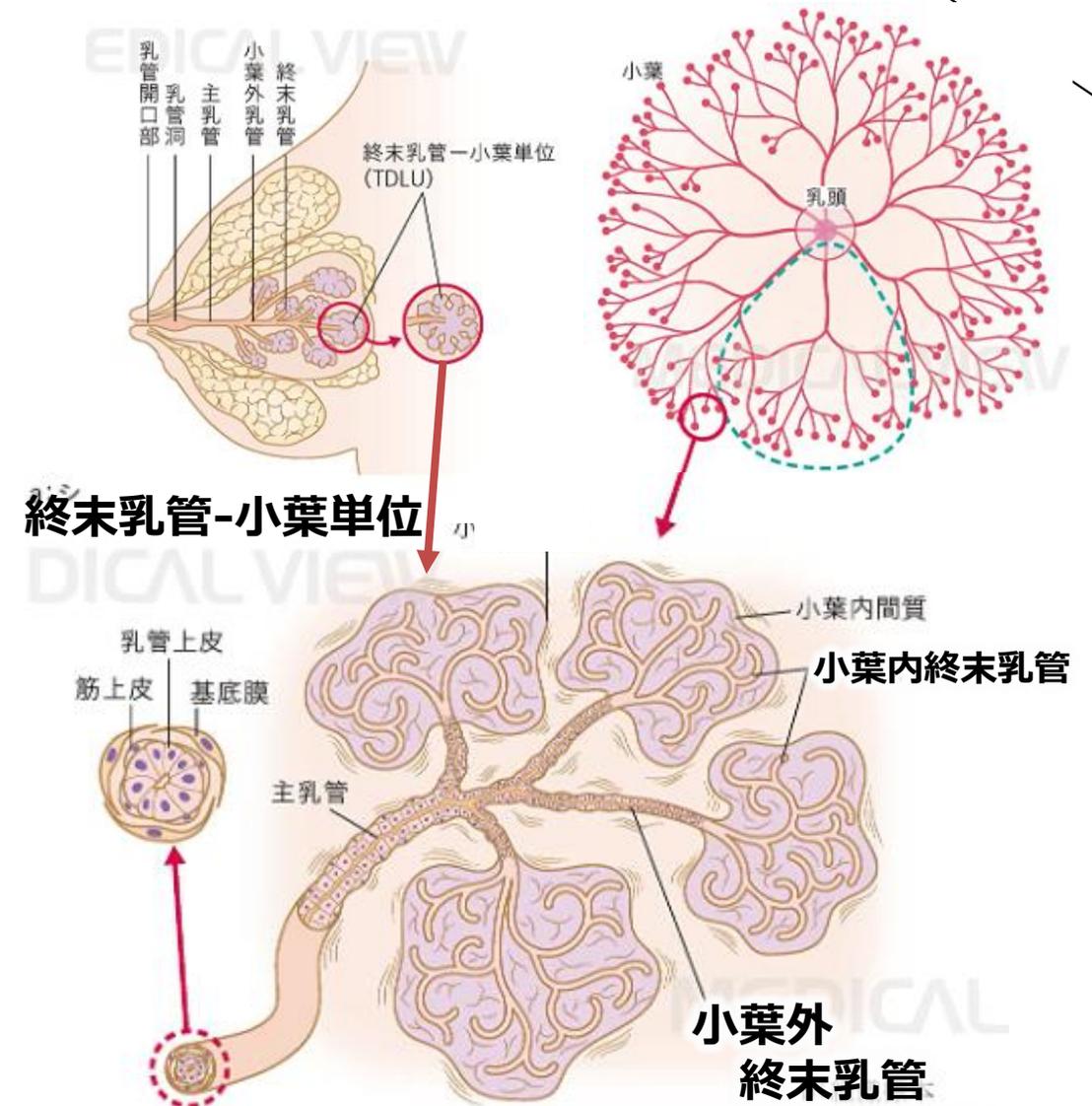
乳管上皮

■間質

筋上皮

●終末乳管-小葉単位(TDLU)

乳がんのほとんどは、**TDLU**で発生

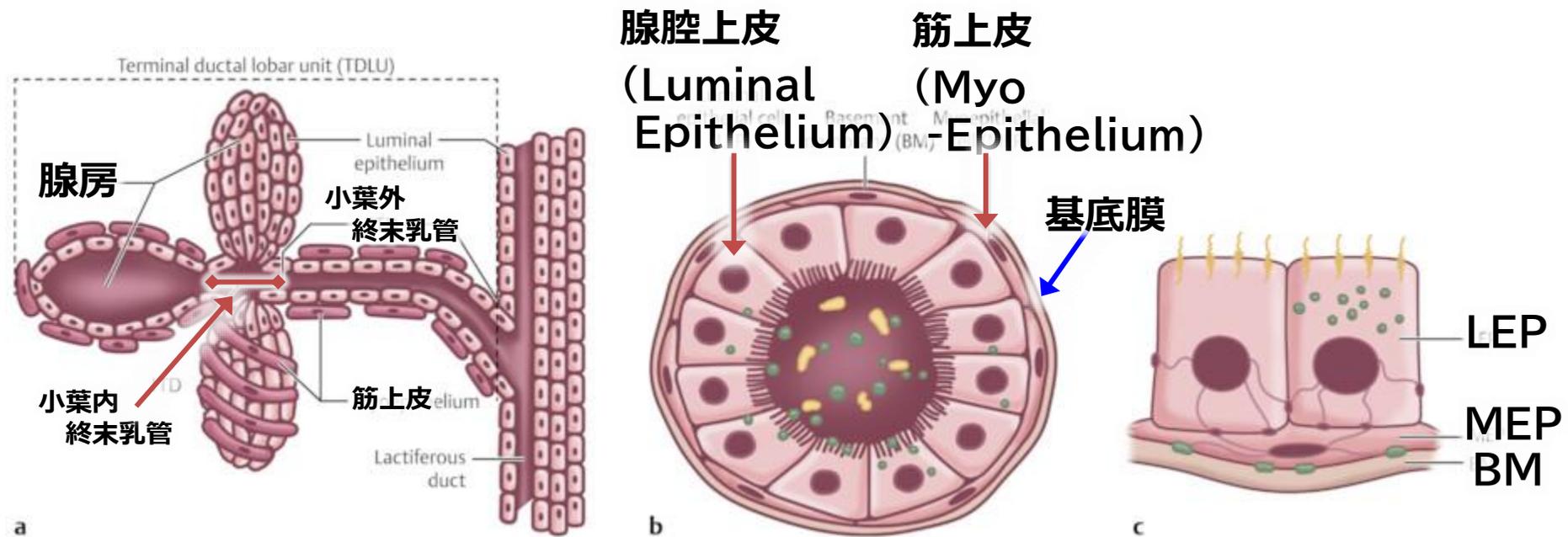


終末乳管-小葉单位(TDLU)

TDLU

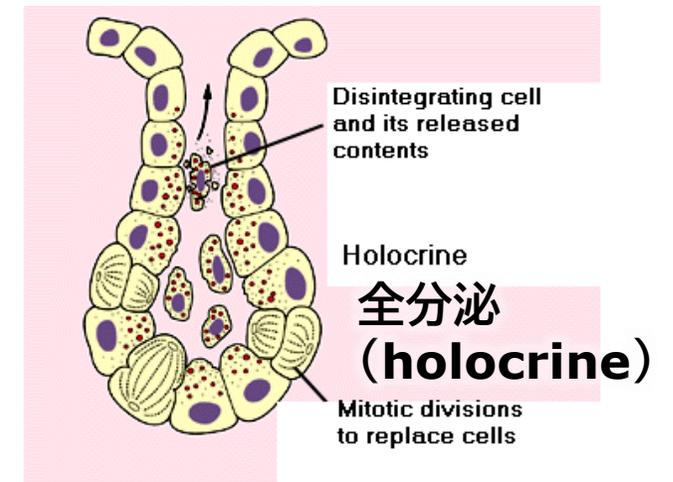
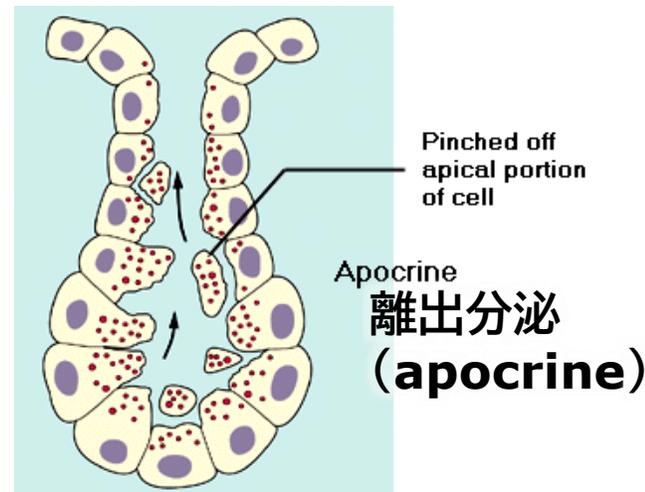
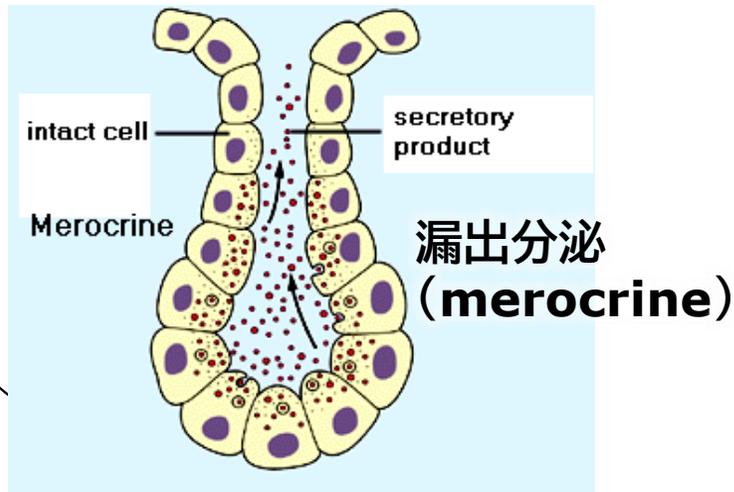
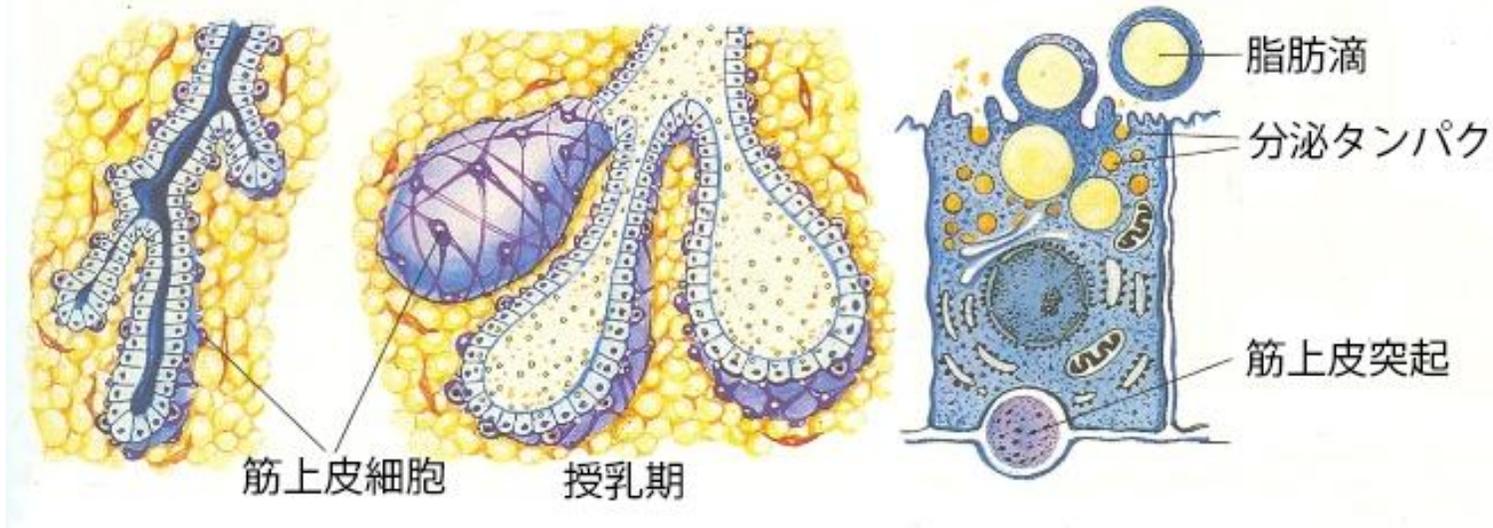
腺房→小葉内終末乳管→小葉外終末導管

- 腺腔上皮 LEP(腺房・導管を形成)
- 筋上皮 MEP



乳腺の分泌形式

- 乳腺はアポクリン分泌（アポクリン汗腺ではない）



浅胸筋群

● 浅胸筋

■ 小胸筋

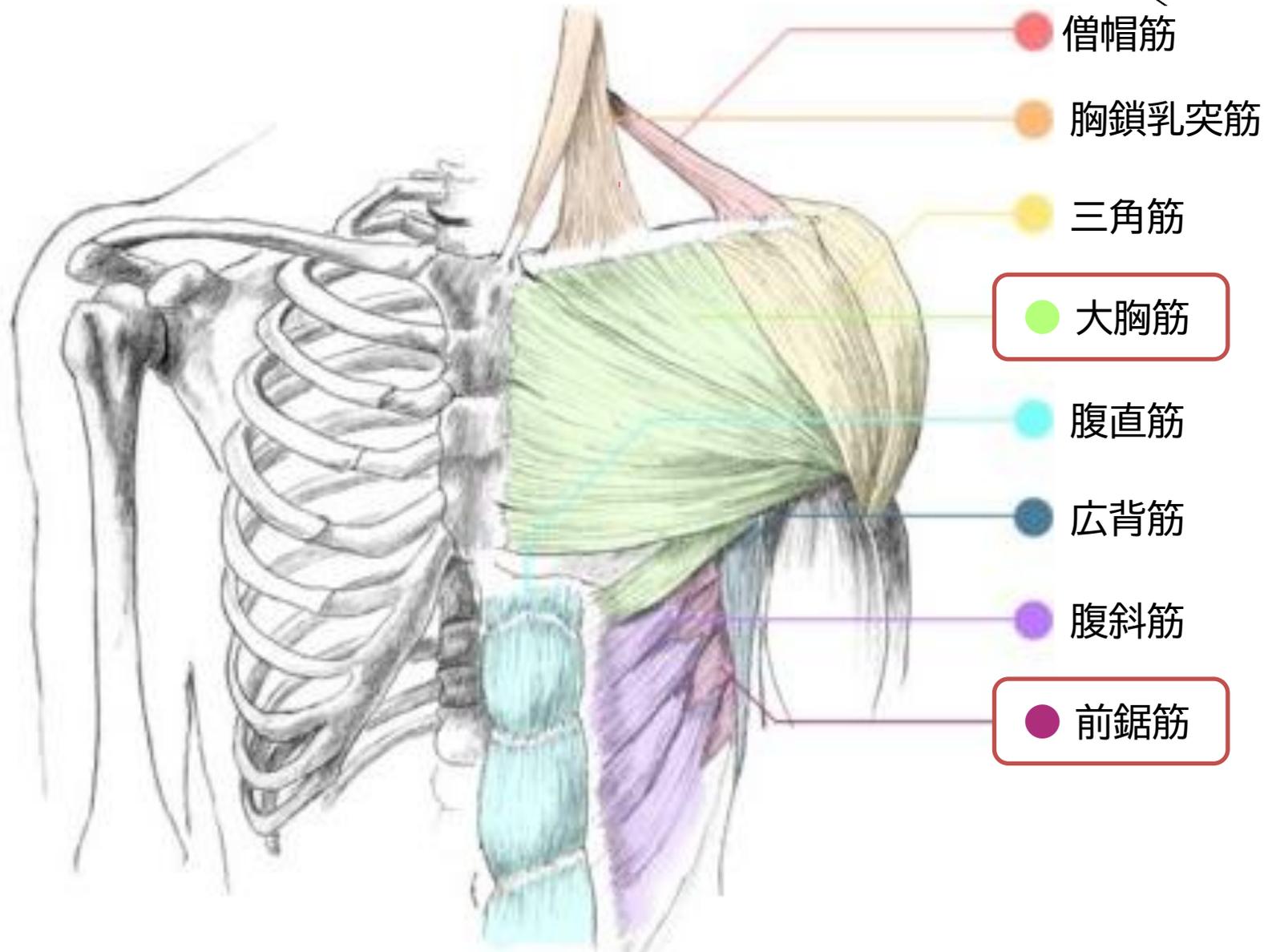
■ 大胸筋

■ 鎖骨下筋

■ 前鋸筋

● 深胸筋

■ 肋間筋群



胸壁と胸筋を構成する骨・筋肉

- 胸筋 浸潤しても、
腫瘍は筋肉とともに動く。

- 大胸筋

- 小胸筋

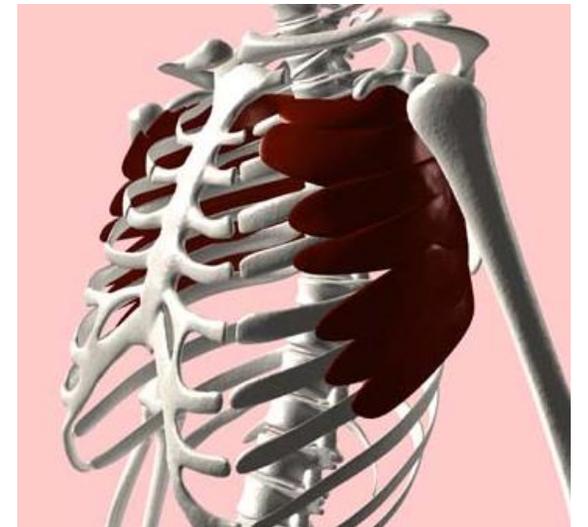
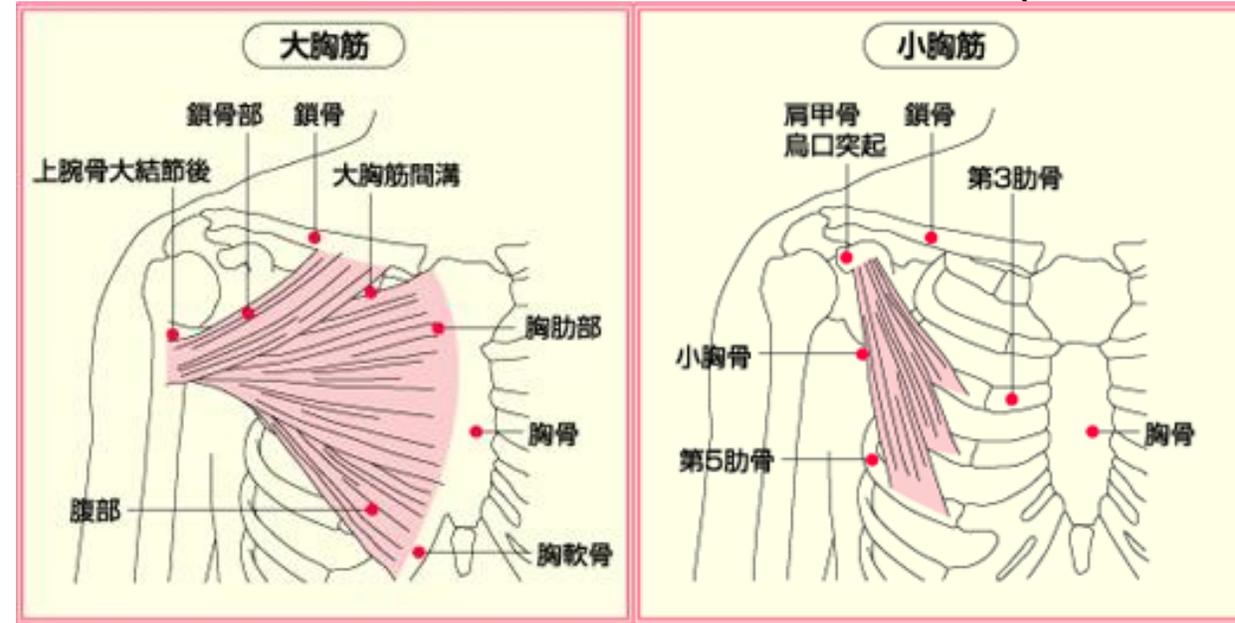
(リンパ節領域の決定においても重要)

- 胸壁 浸潤すると、
腫瘍は動かなくなる。

- 前鋸筋(右図)

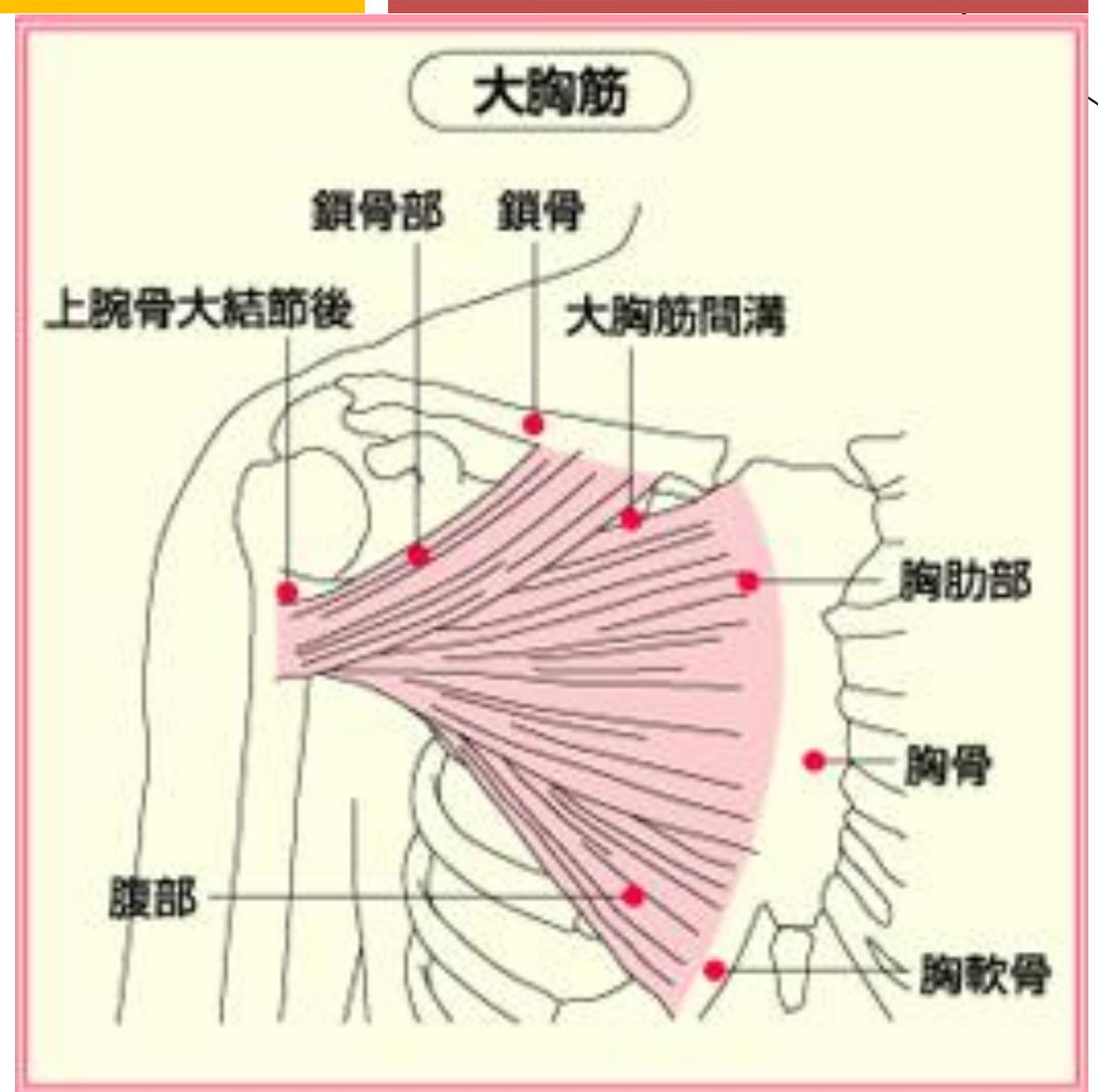
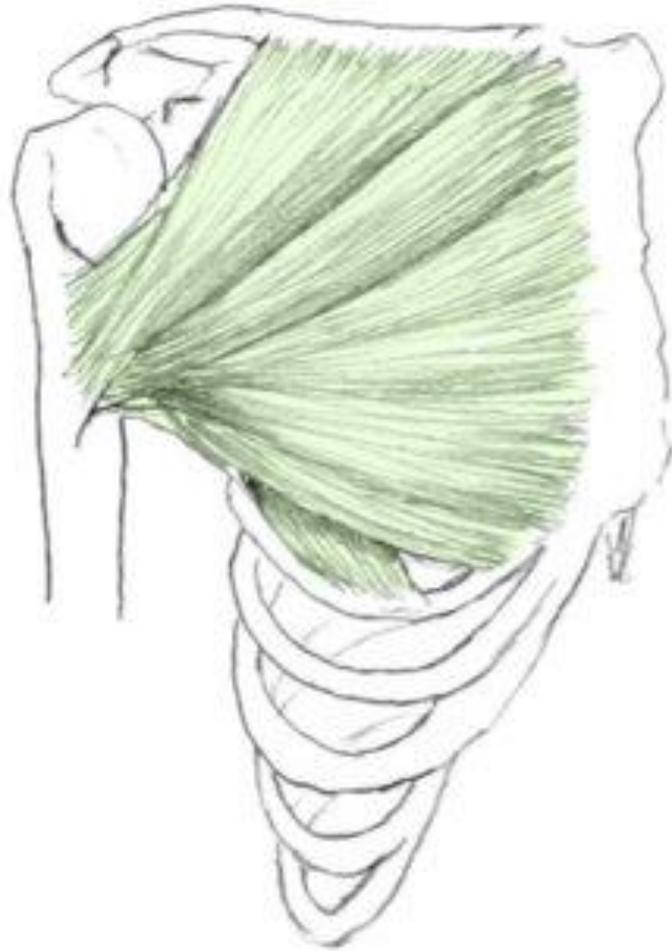
- 肋骨

- 肋間筋



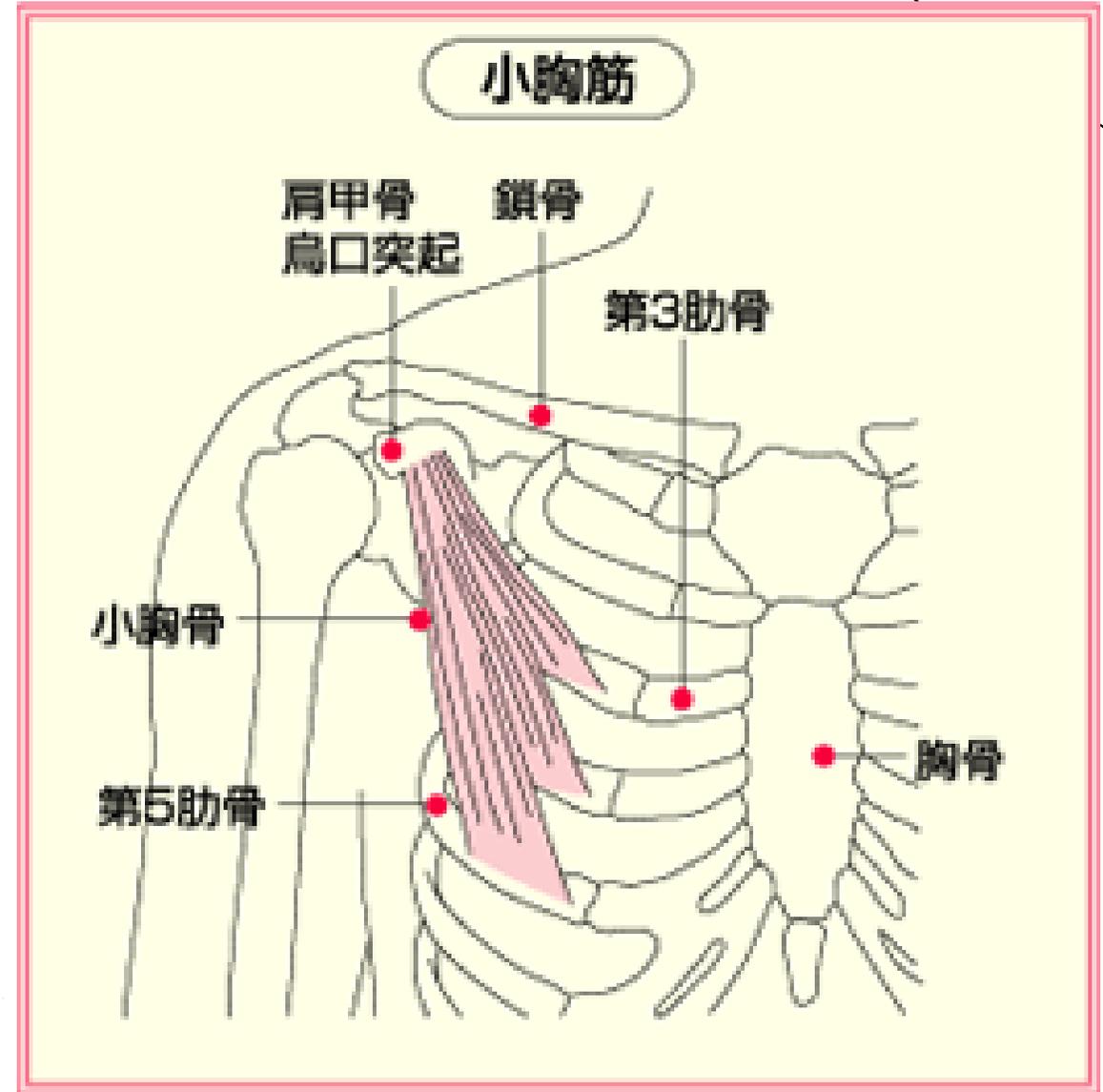
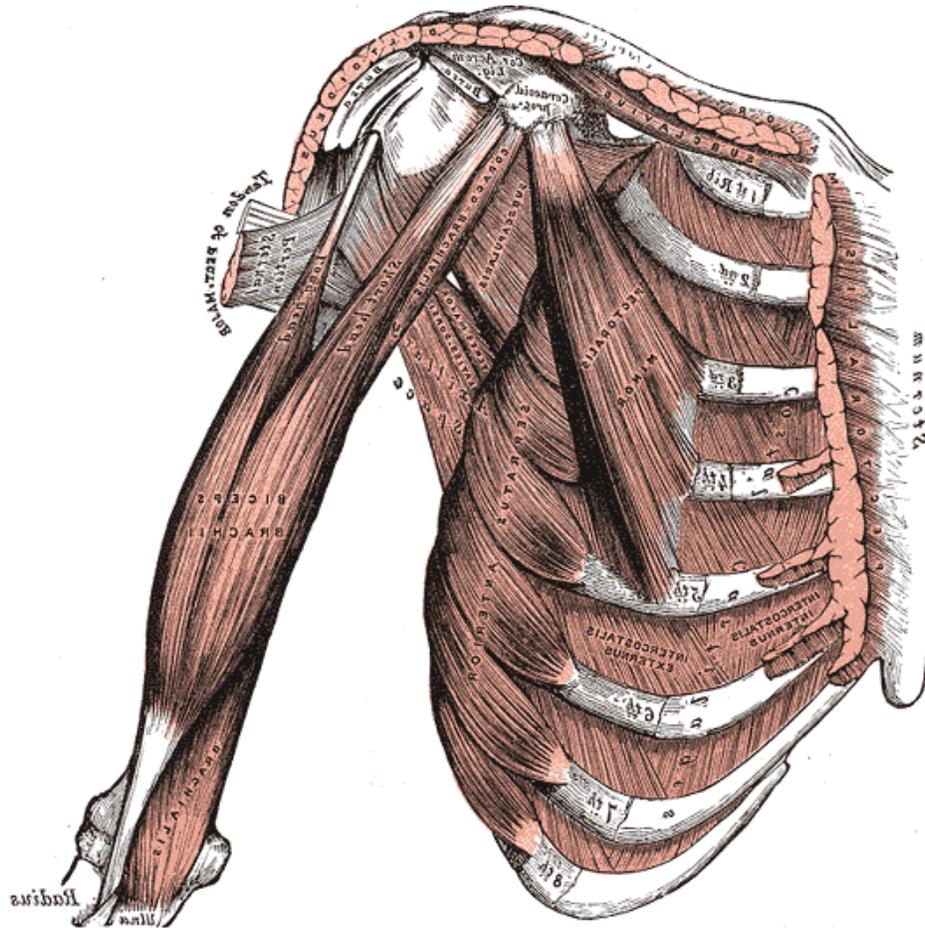
大胸筋

- 乳腺を支える筋肉



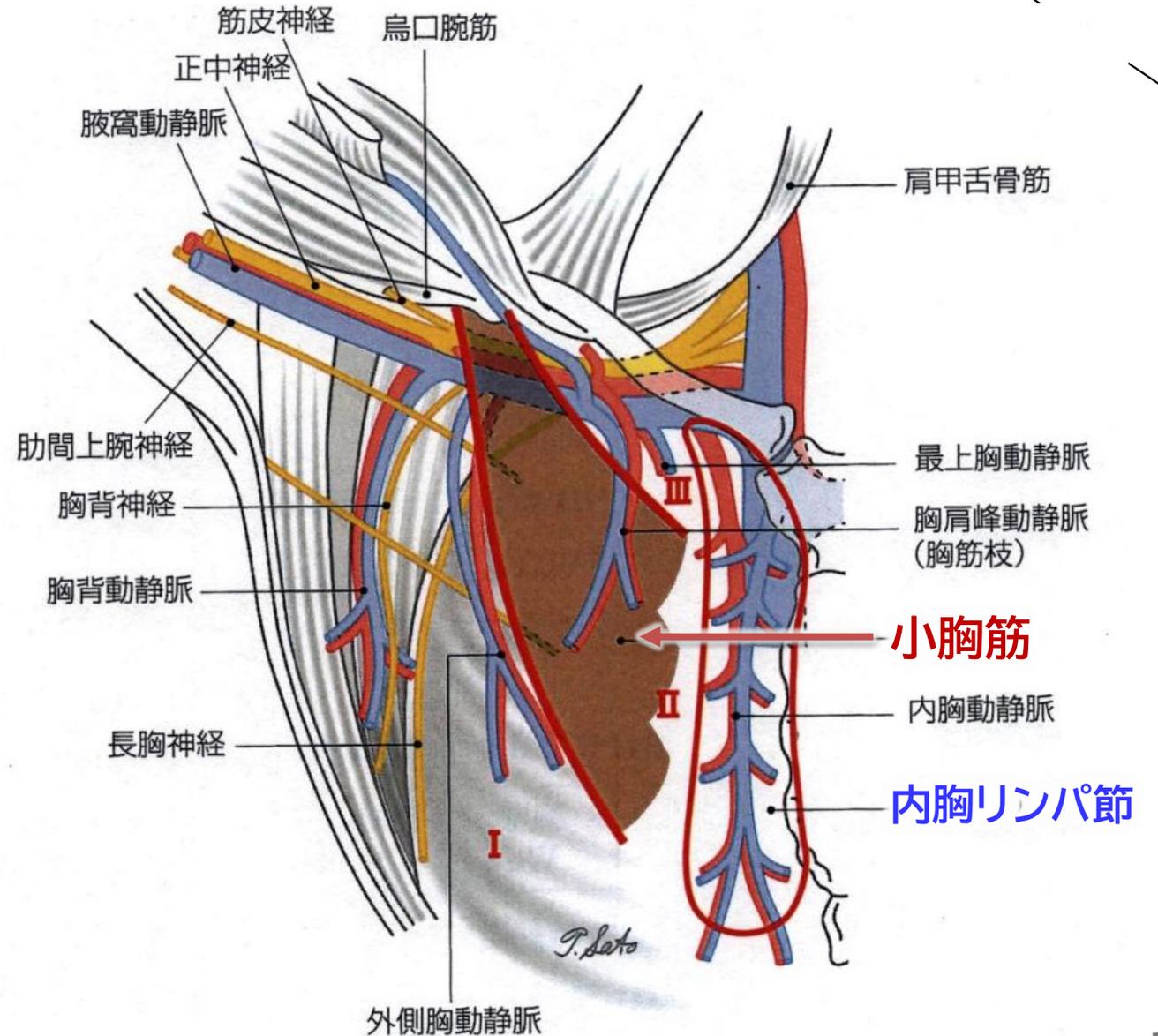
小胸筋

- 腕を内転する筋
 - 乳癌ではリンパ節区域の目安。



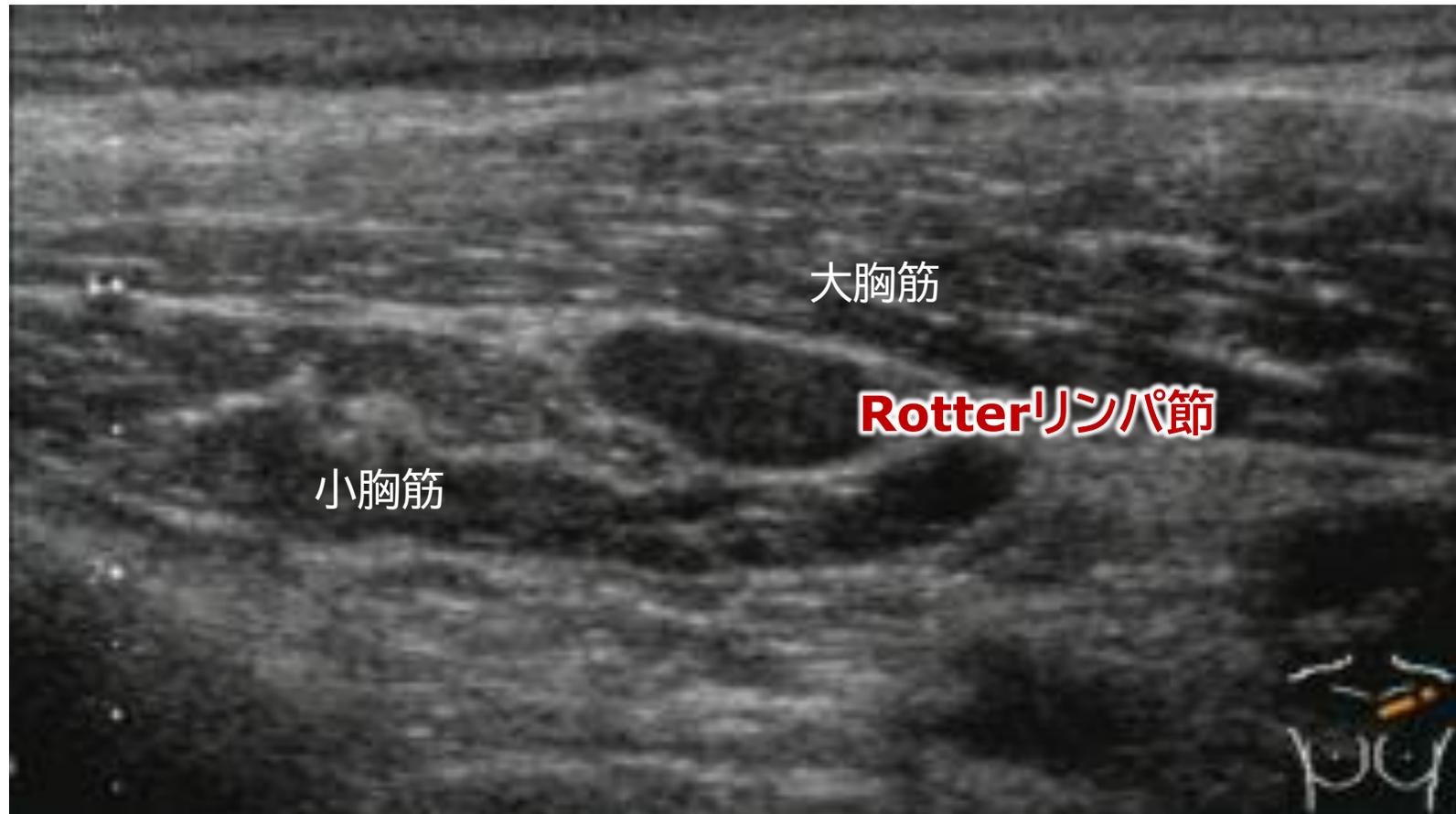
小胸筋と腋窩リンパ節

- レベル I
小胸筋の外側
- レベル II
小胸筋の裏側
(表面側も)
- レベル III
小胸筋の内側上方



Rotterリンパ節

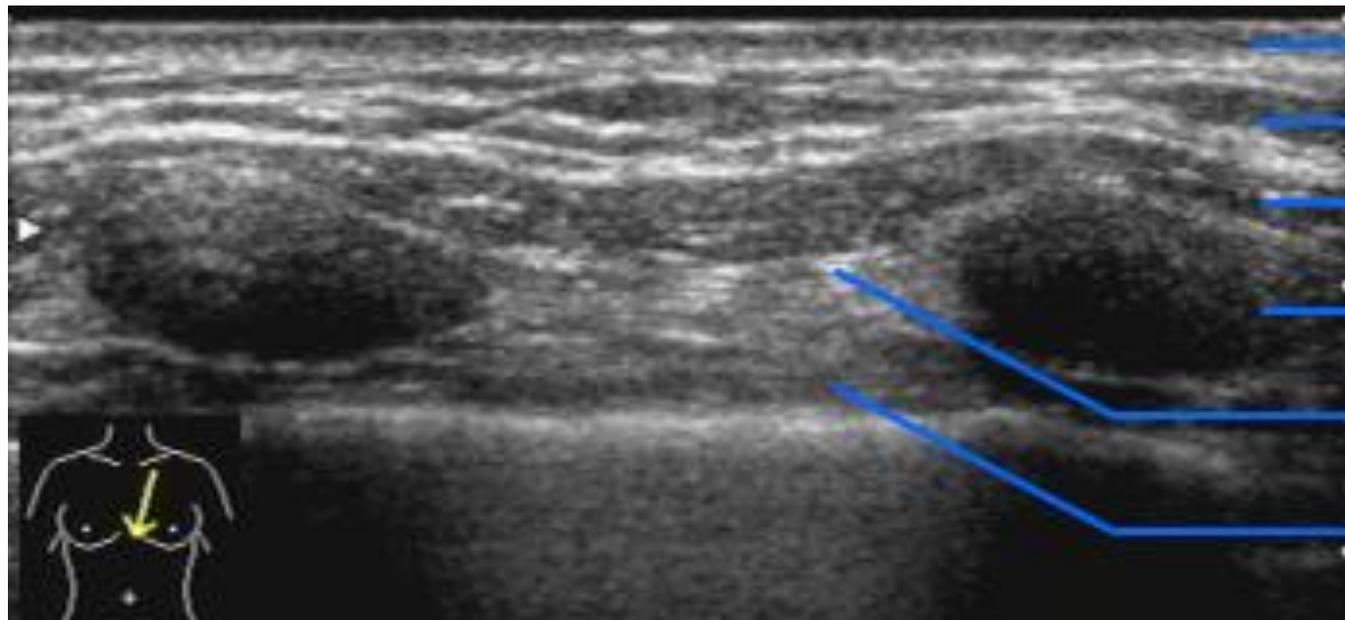
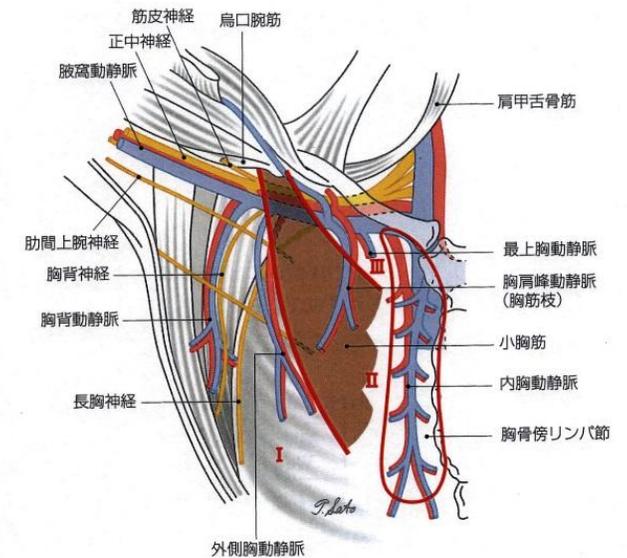
- 大胸筋と小胸筋の間にあるリンパ節
 - 腋窩リンパ節: レベルII



内胸リンパ節の検査

- 超音波検査が中心(胸部CTで分かることも)。
- 胸膜と肋間筋の間に存在
- 内胸動脈の周囲に存在

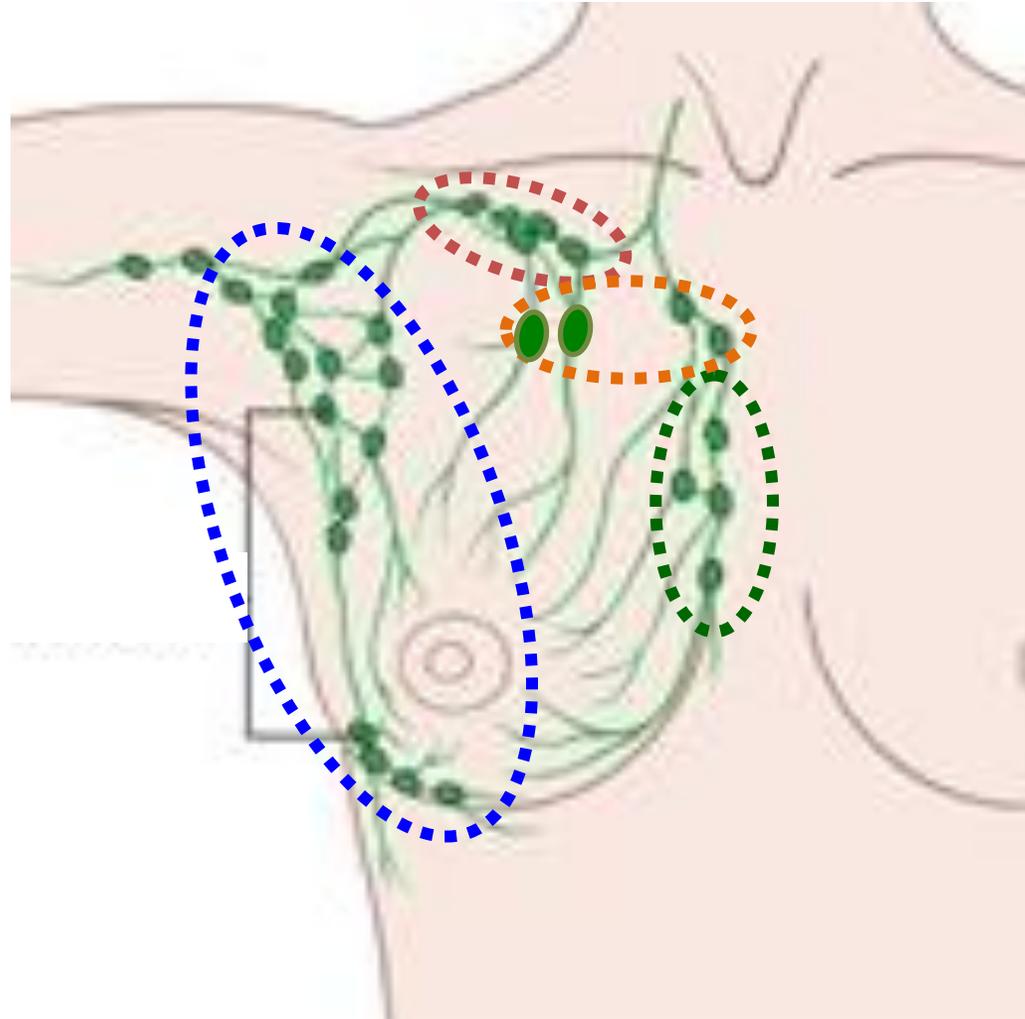
取扱い規約 第17版までは
「胸骨傍リンパ節」と呼ばれていた



皮膚
脂肪層
大胸筋
肋骨
肋間筋
胸膜

乳腺周囲のリンパ節

- 腋窩リンパ節
- 鎖骨下リンパ節
- 内胸リンパ節
- 鎖骨上リンパ節

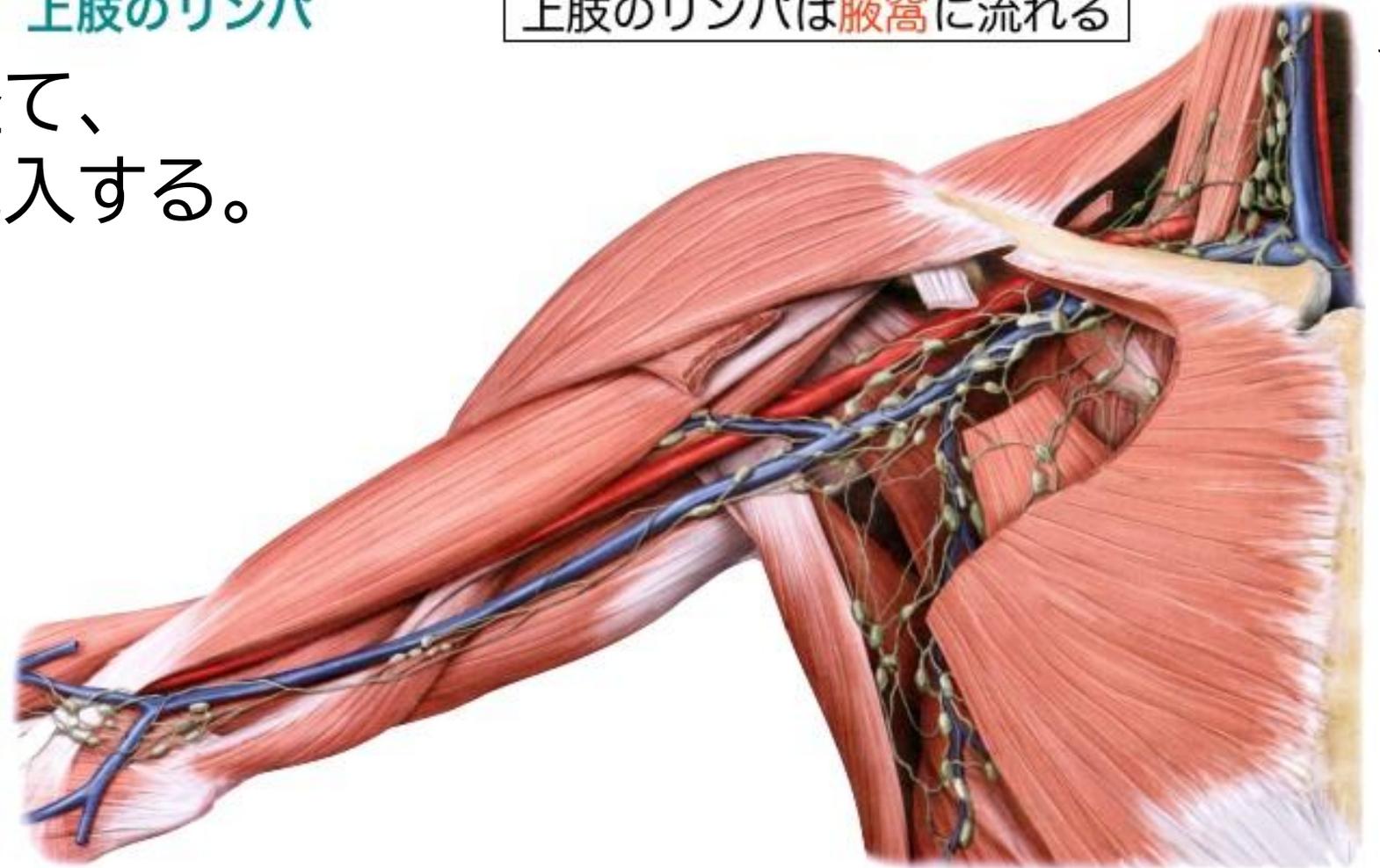


上肢から腋窩のリンパ節

- 上肢のリンパ流は、**上肢のリンパ** 肘窩リンパ節を経て、腋窩リンパ節に流入する。

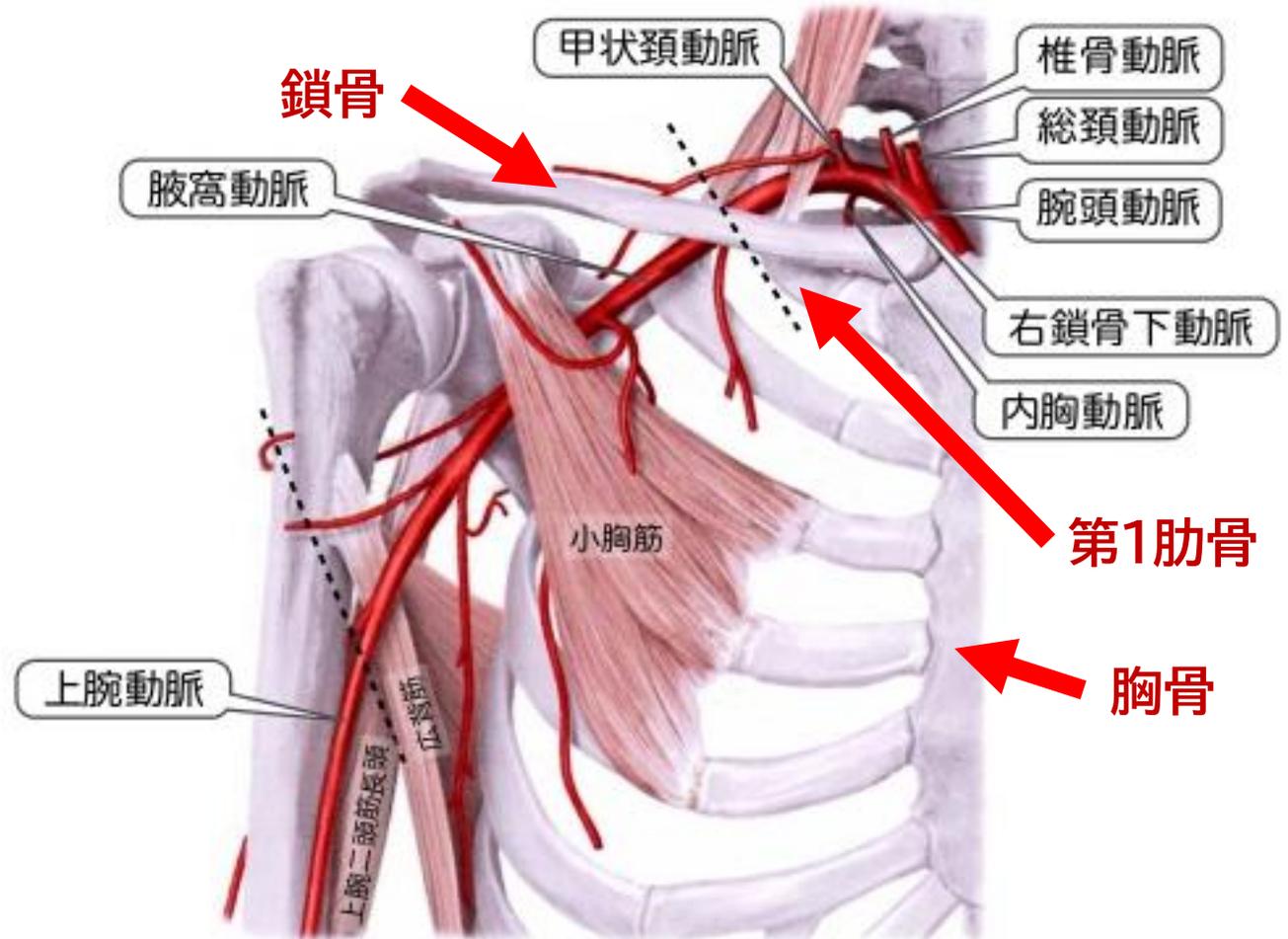
上肢のリンパは**腋窩**に流れる

- 腋窩リンパ節
- 鎖骨上リンパ節
- 鎖骨下静脈
- 上大静脈



鎖骨下動脈

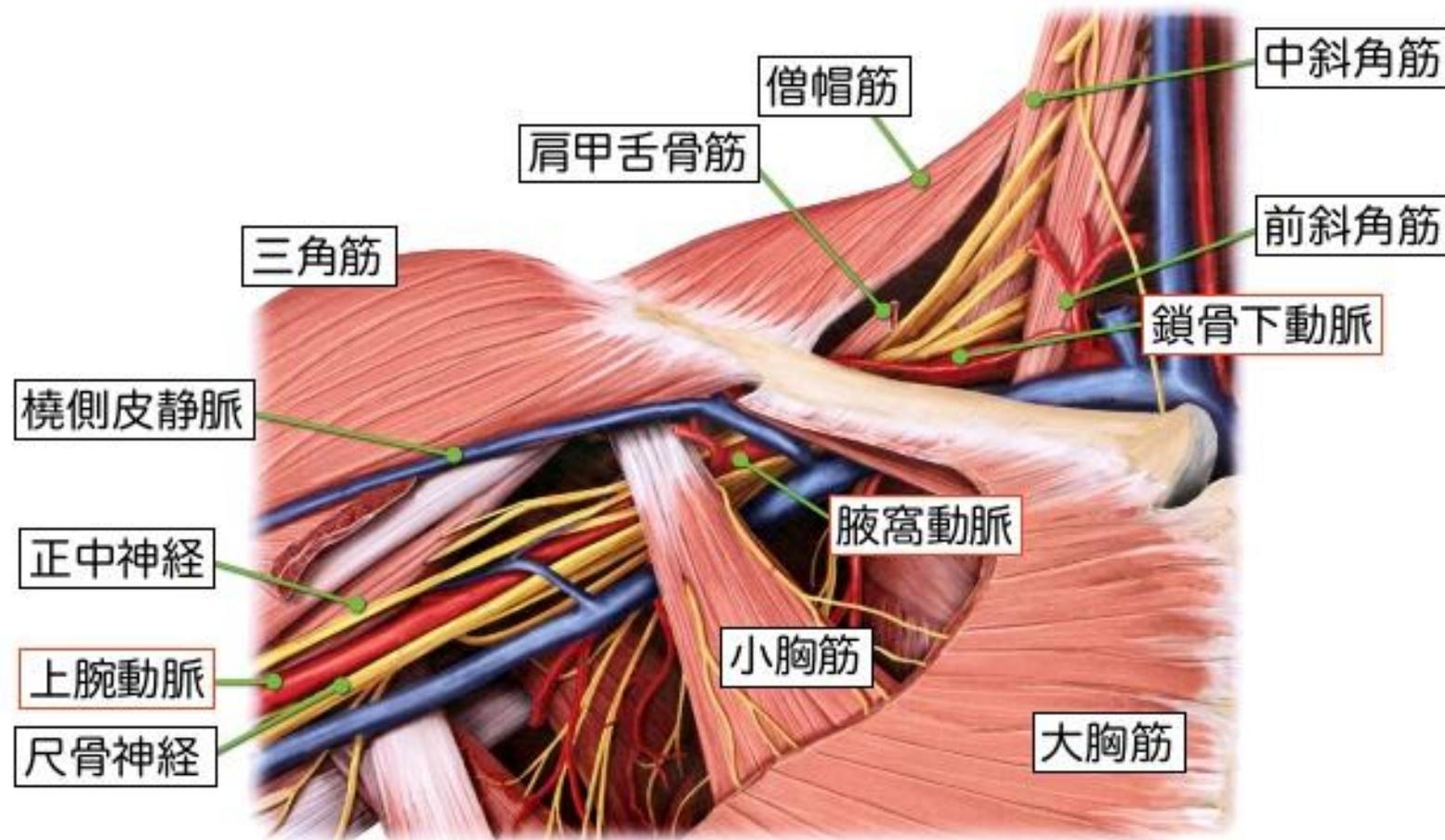
- 内胸動脈を分岐した後、
 - 椎骨動脈
 - 総頸動脈
 - 肋頸動脈
- 第1肋骨外側で腋窩動脈となる
- 広背筋外側で上腕動脈となる



腕神経叢

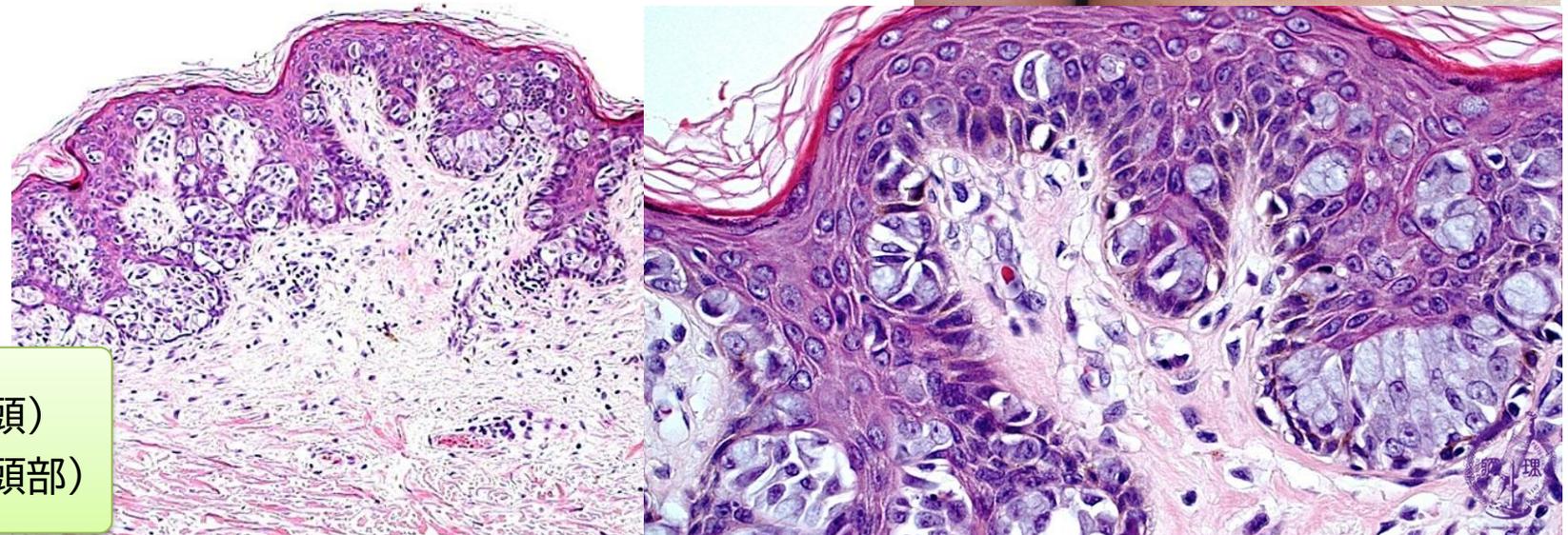
腋窩動脈と腕神経叢

腋窩には腋窩動静脈の他、腕神経叢が通過する。



Paget病(Paget癌)

- 表皮近くの発生した乳管癌が、乳頭表皮に進展
 - 高齢者に多く、進展は緩徐
 - 多くが表皮内・乳管内にとどまる
- **Pagetoid癌**
 - 浸潤性乳管癌が、乳頭に進展したものの
 - リンパ節転移
 - 予後不良



Paget病 C50.0(乳頭)
Pagetoid癌 C50.1(乳頭部)

乳癌の発生形式

- ほとんどは **導管癌**
 - 導管に沿って進展。
初めは**導管内癌**(DCIS)。
 - 基底膜を破って進展すると、**浸潤癌**。
- **小葉癌**
腺房細胞付近から発生
- **葉状腫瘍**
腺房周囲の間質から発生

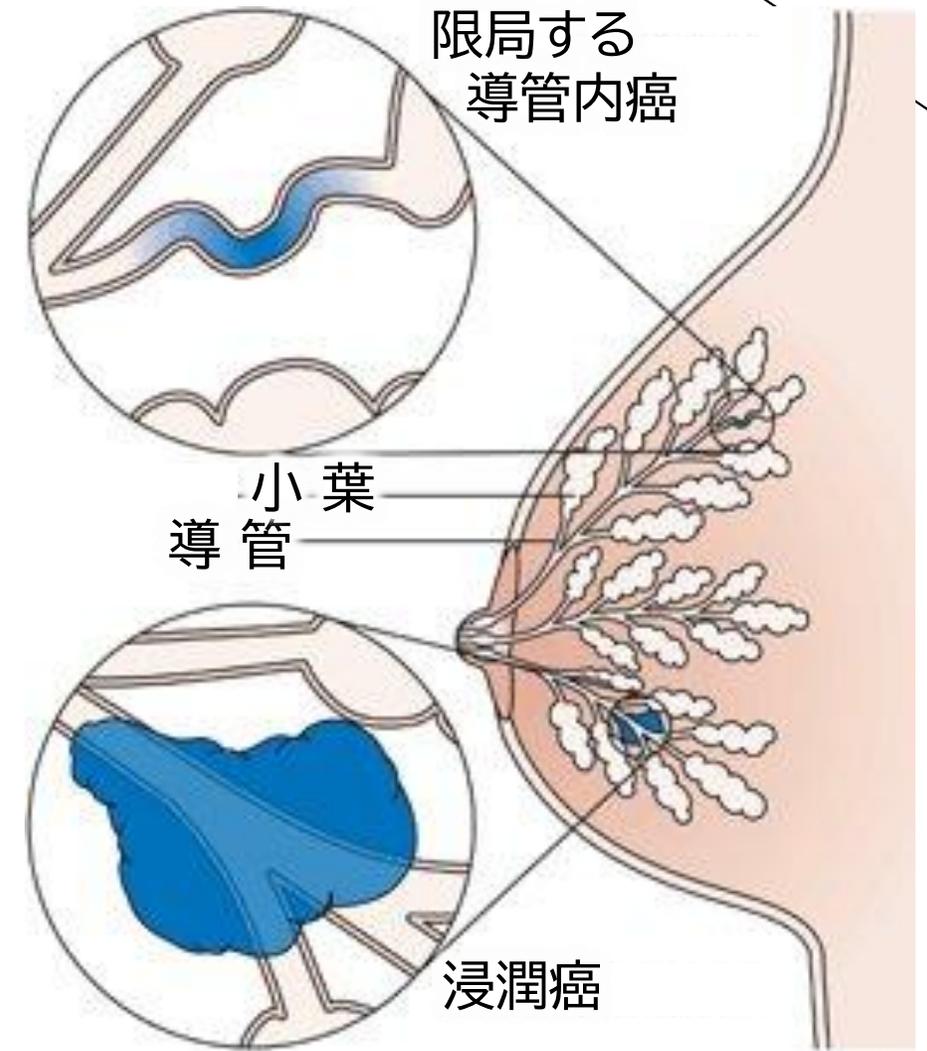


Diagram showing ductal cancer in situ (DCIS)
Copyright © CancerHelp UK

乳癌の 代表的な 組織型

● 導管癌

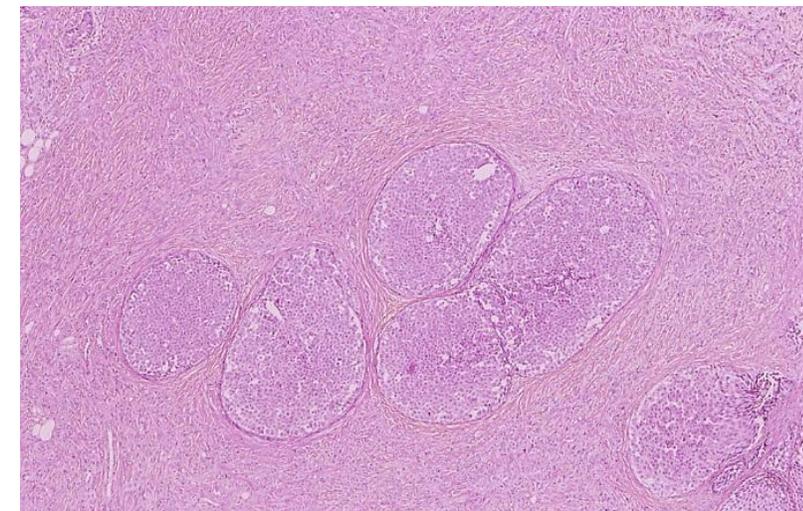
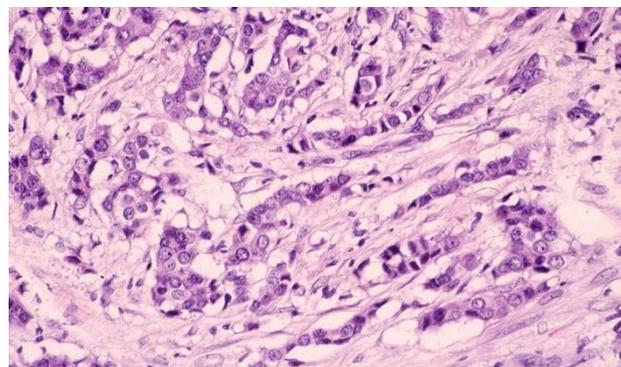
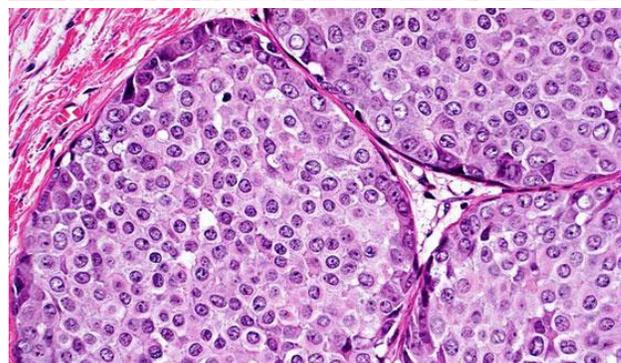
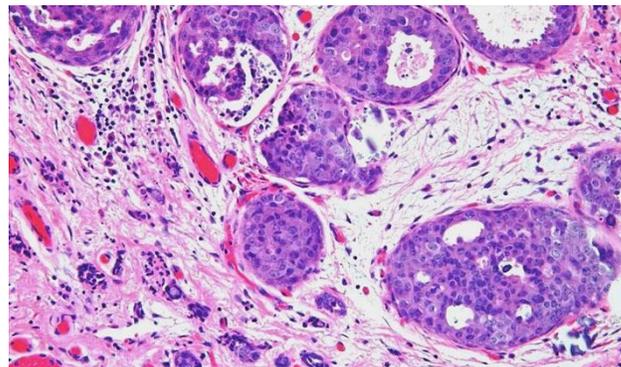
■ 腺管型

■ 充実型

■ 硬性型

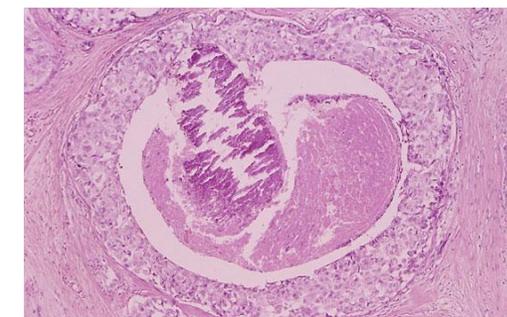
■ その他

↑ わが国独自の呼び名



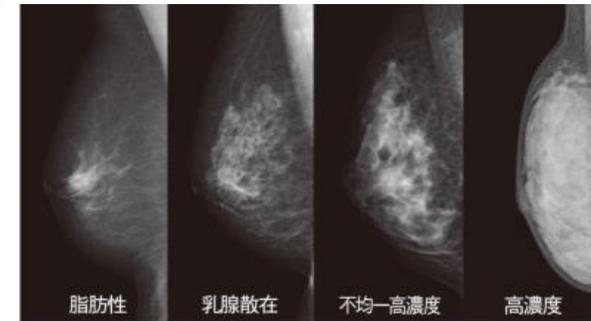
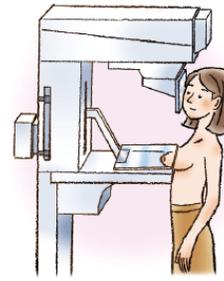
● 小葉癌

● 面疱癌

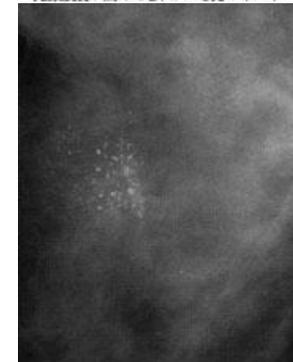


乳がんの診断

- マンモグラフィー(MMG)
 - 高濃度乳腺では所見わかりにくい。
 - **DCIS**でも見つけられることがある。
- 超音波検査
 - 高濃度乳腺でも有効。
 - **DCIS**では見つけられないことが多い。
- 病理/細胞検査
 - 細胞診
 - 組織診



乳腺濃度が高めだと、がんを見つけにくい



乳房構成

- 高濃度乳腺 (Dense Breast)
- 乳房構成の濃度が高いほど、検診感度が低下する。
 - きわめて高濃度
 - 不均一高濃度
 - 乳腺散在
 - 脂肪性
- 用手的超音波検査が、補助的診断法として検討

ブレスト・アウェアネス

- 乳房を意識した生活習慣 ≠ 自己触診
- 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」
2021年改正で明記
 - 自分の乳房の状態を知る。
 - 乳房の変化に気を付ける。
 - 変化に気付いたらすぐに医師に相談する。
 - 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける。

サブタイプ分類

- 乳がんは、ホルモン受容体(レセプター)の有無で予後が異なる。
- 陽性である方が、ホルモン療法効きやすい。
- トリプルネガティブの場合が一番問題。

サブタイプ分類	ホルモン受容体		HER2	Ki67値
	ER	PgR		
ルミナルA型	陽性	陽性	陰性	低
ルミナルB型 (HER2陰性)	陽性または陰性	弱陽性または陰性	陰性	高
ルミナルB型 (HER2陽性)	陽性	陽性または陰性	陽性	低～高
HER2型	陰性	陰性	陽性	-
トリプルネガティブ	陰性	陰性	陰性	-

乳がんの治療

● 原則は手術だが、根治的とは考えない

■ 術前化学療法

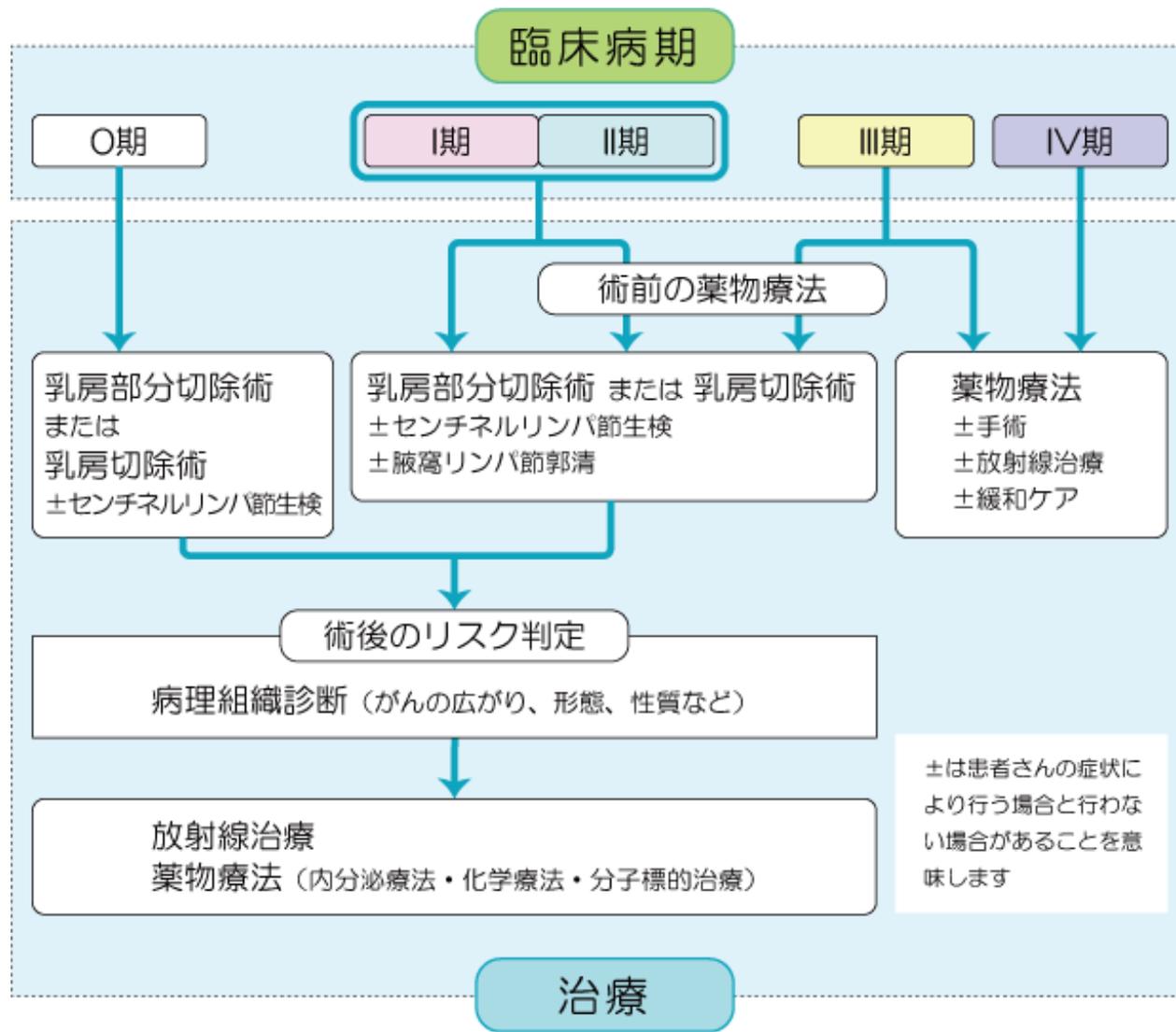
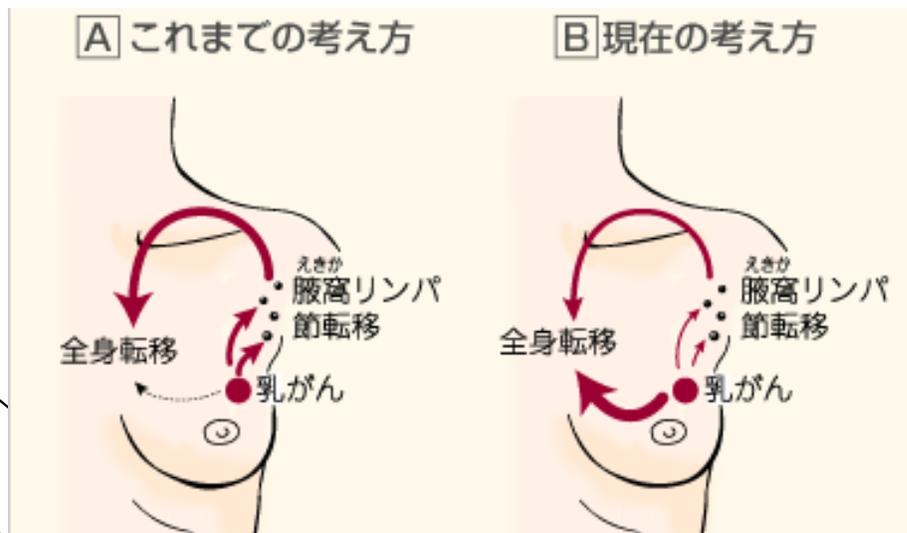
(ネオアジュバント)

■ 術後化学療法

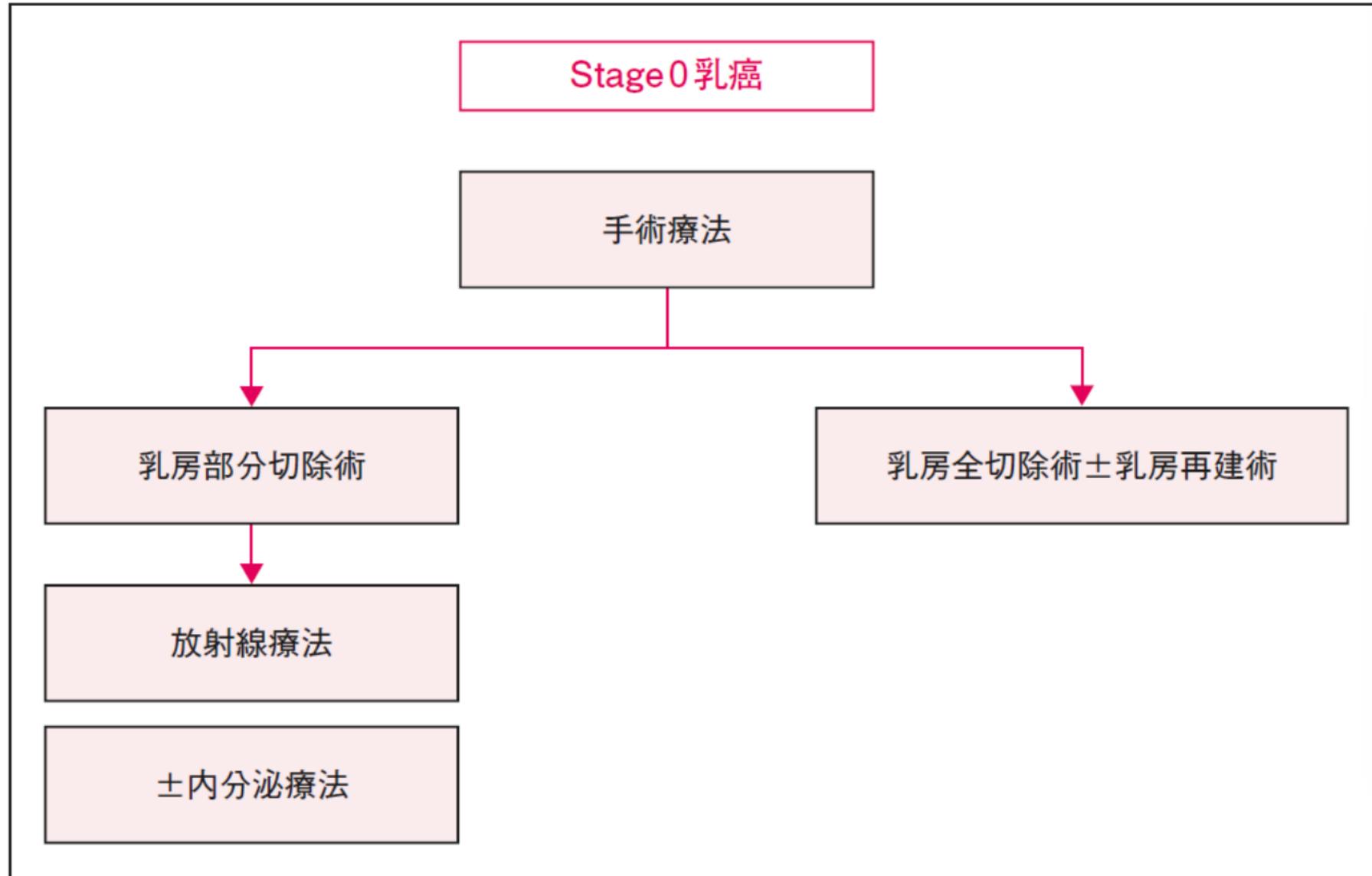
■ 術後内分泌療法

■ 術後放射線療法

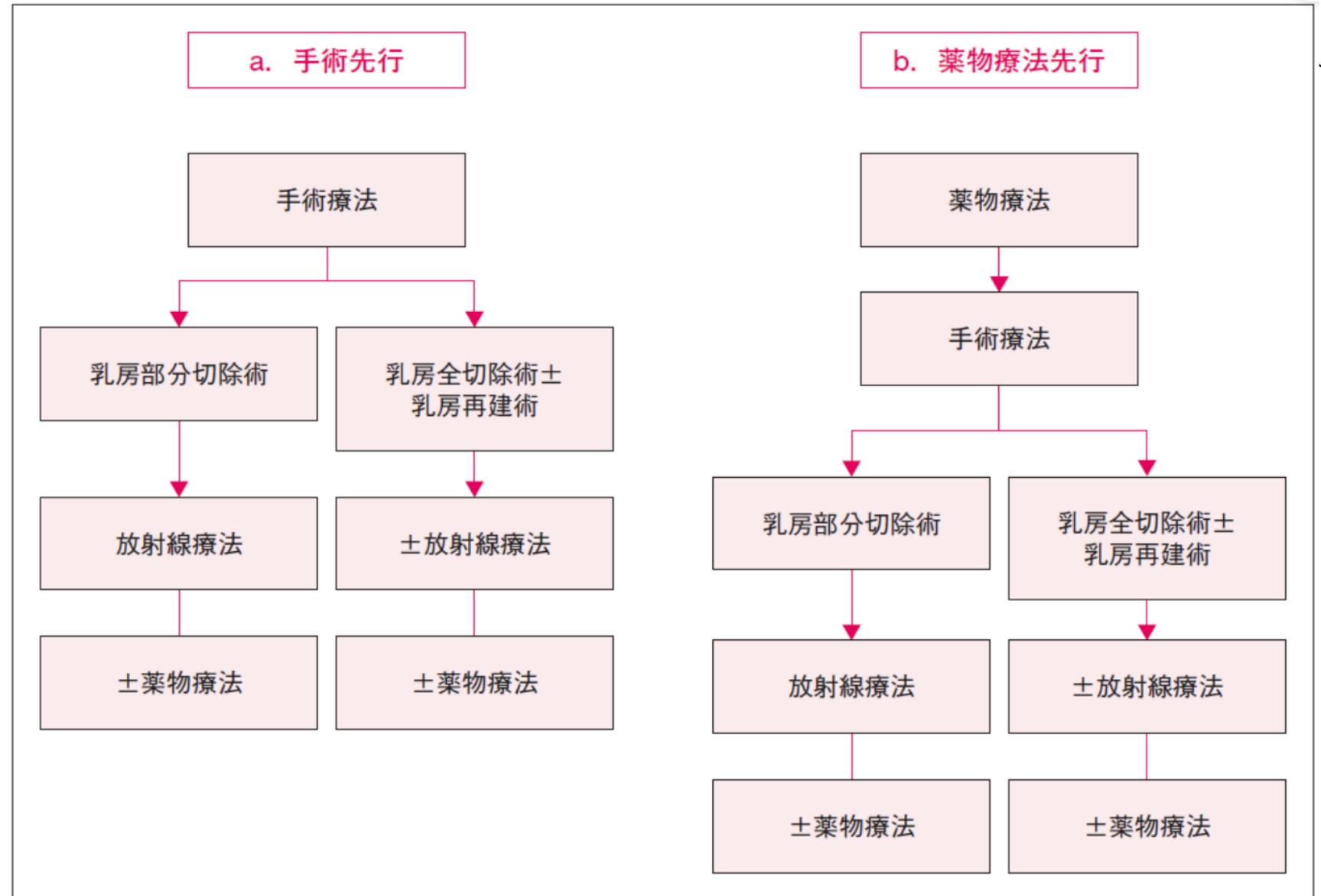
などを組合せる。



非浸潤性乳管癌(DCIS)の治療



早期乳癌の治療



治療効果予測因子

- ホルモン受容体(**HR**)
- エストロゲン受容体(**ER**) 治療効果予測因子
- プロゲステロン受容体(**PgR**) 予後予測因子
- **HER2**
- 多遺伝子アッセイ〈OncotypeDXなど〉
- **BRCA1/2**遺伝子
- **PD-L1**発現

予後予測因子

- 臨床病期
- グレード
 - 組織学的グレード
 - 核グレード
- ホルモン受容体
 - エストロゲン受容体 (**ER**)
 - プロゲステロン受容体 (**PgR**)
- **HER2**
- **Ki67**



<https://breast.predict.nhs.uk/>

治療効果予測因子

治療効果予測因子

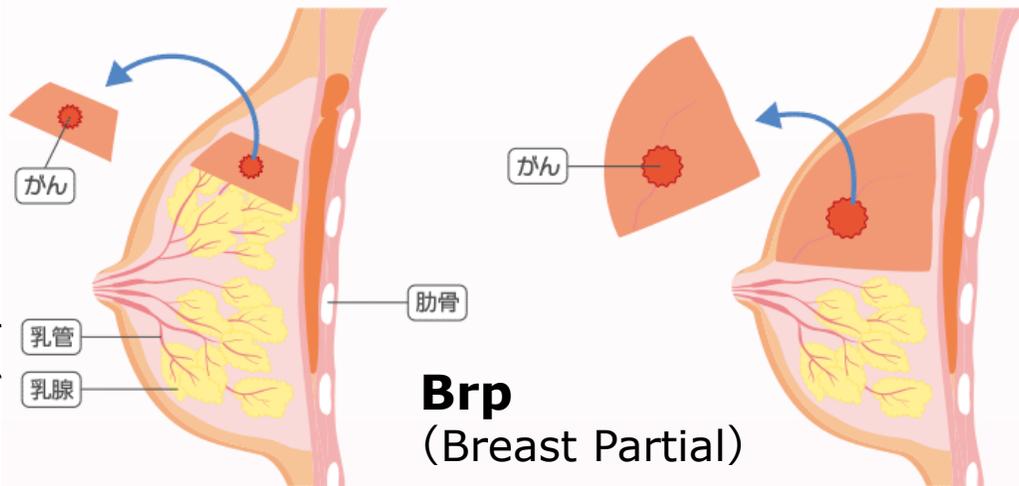
乳がんの手術

- 胸筋温存乳房切除術
 - 以前は、胸筋合併切除
- 乳房温存手術
 - 円状部分切除
 - 扇状部分切除

乳房温存手術の種類

[乳房円状部分切除術]

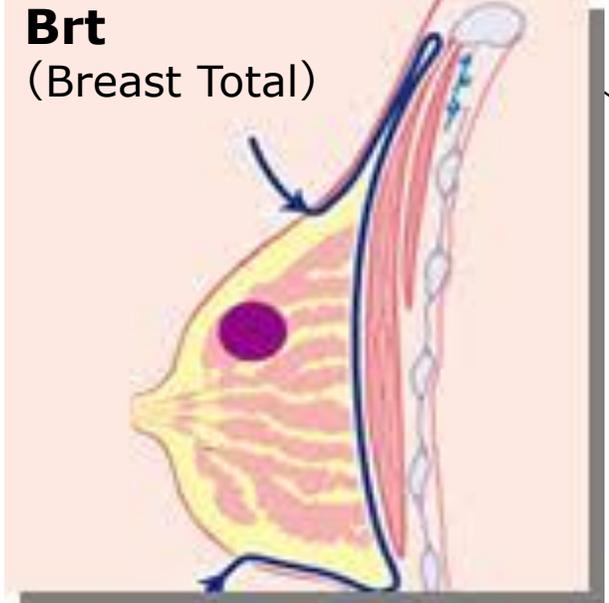
[乳房扇状部分切除術]



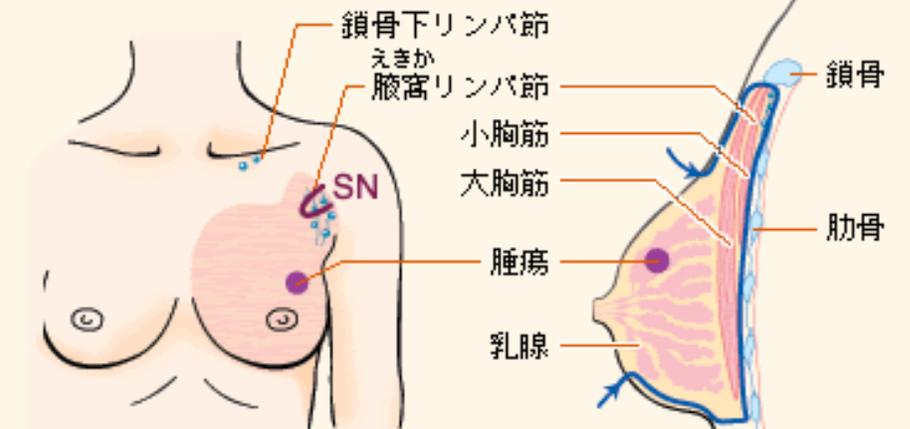
Brp
(Breast Partial)

しこりから一定の距離をおいて切除する

しこりの乳管への進展を考慮して扇型に切除する



胸筋合併乳房切除術の切除範囲

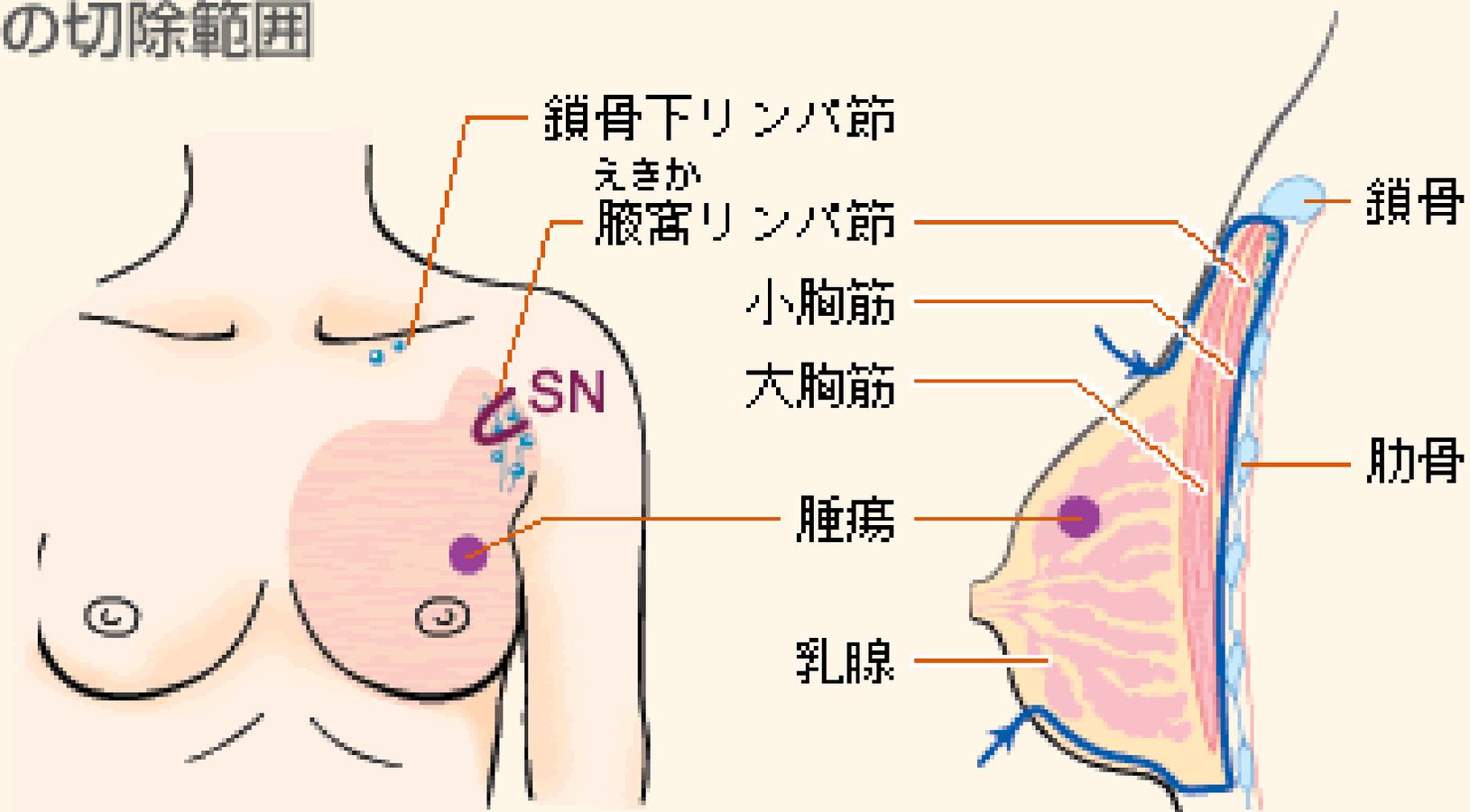


乳癌手術の術式

- 胸筋合併乳房切除術(Halsted法)
- 胸筋温存乳房切除術
 - 大胸筋のみを温存(Patey法)
 - 大胸筋・小胸筋ともに温存(Auchincloss法)
 - 大胸筋・小胸筋ともに温存(Kodama法)
- 乳房温存手術
 - 扇状部分切除術
 - 円状部分切除術
 - 腫瘍核出術

胸筋合併 乳房切除術

胸筋合併乳房切除術 の切除範囲

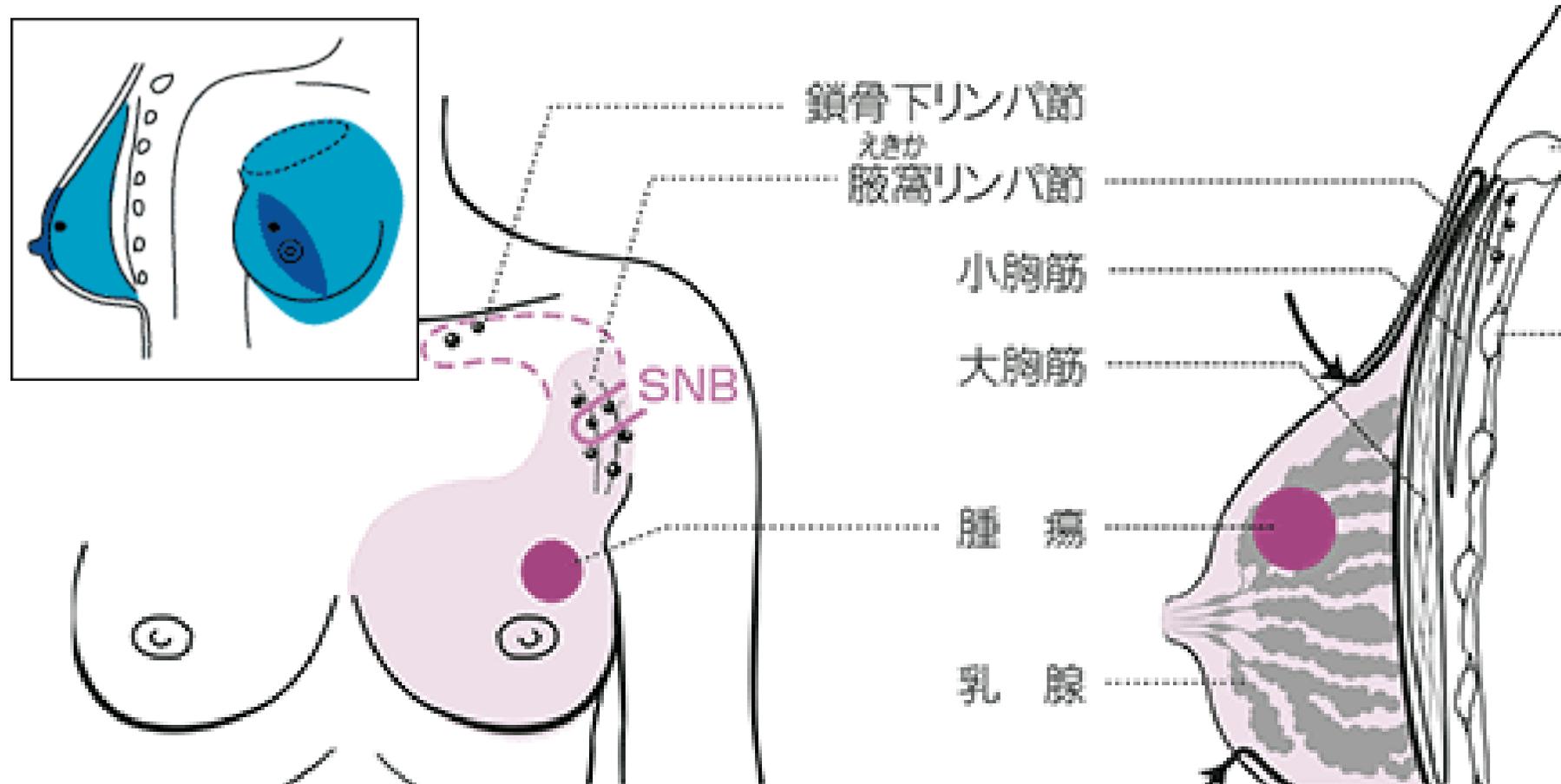


FISHER理論

- 浸潤性乳癌は全身病である
 - 非浸潤性乳管癌の状況では転移はない
 - 手術のみの治療で治癒する可能性がある
- 浸潤性乳管癌は、すでに血行性転移
- 手術後、薬物療法を組み合わせしていく
- 胸筋合併切除手術をする意味は少ない

最近はほとんど 胸筋温存乳房切除術が施行される
診断時には分からない微小な転移が、その後 増殖→再発

胸筋温存乳房切除術

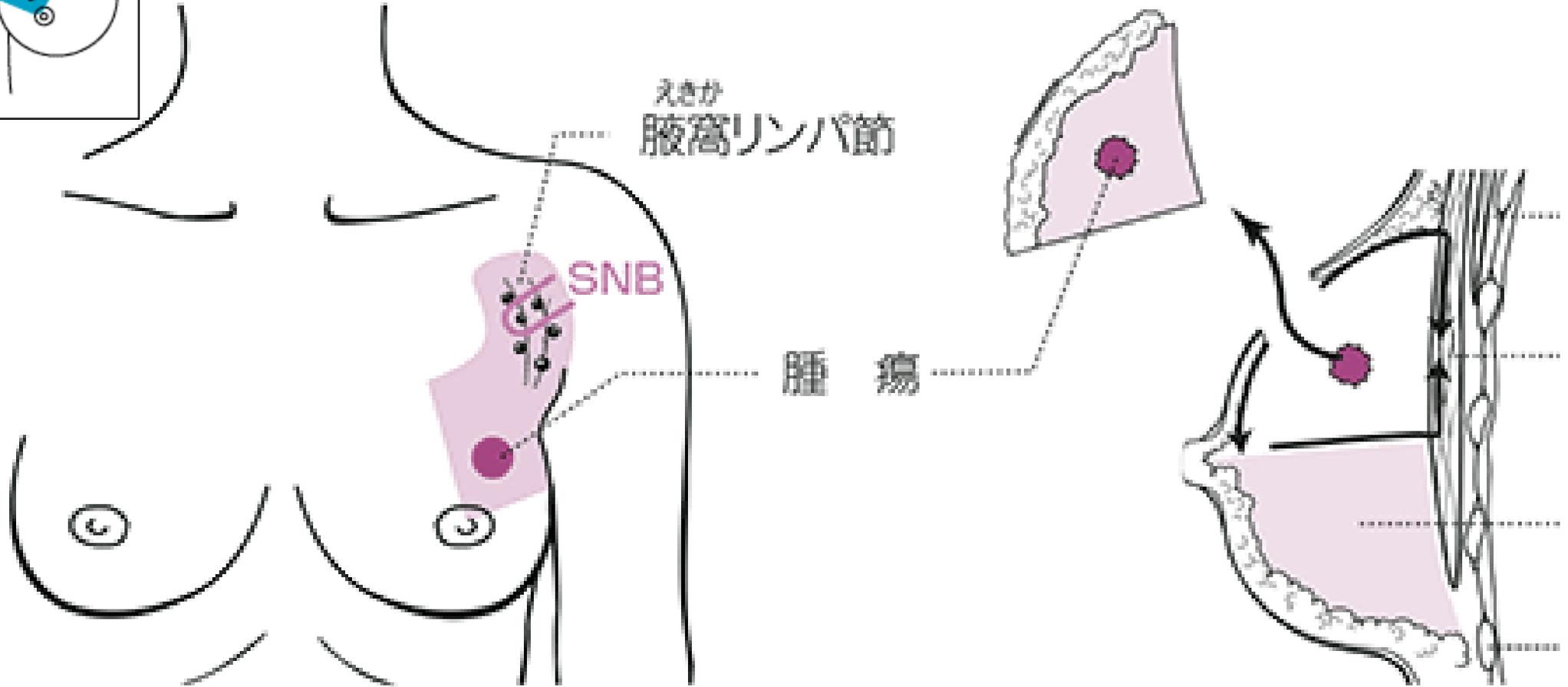
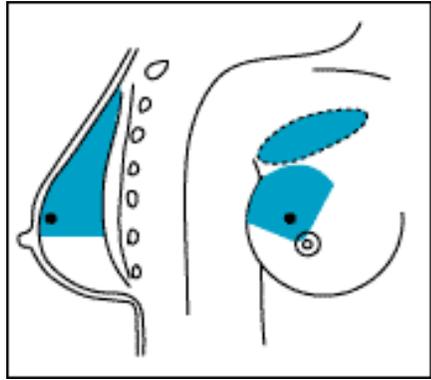


Auchinclose法 + 腋窩リンパ節郭清

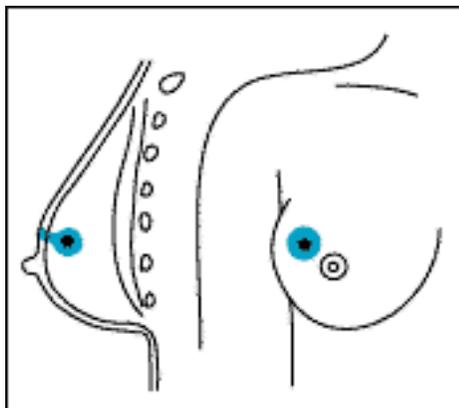
Kodama法 + 腋窩リンパ節郭清 + 鎖骨下リンパ節郭清

Patey法 + 小胸筋 + 腋窩リンパ節郭清 + 鎖骨下リンパ節郭清

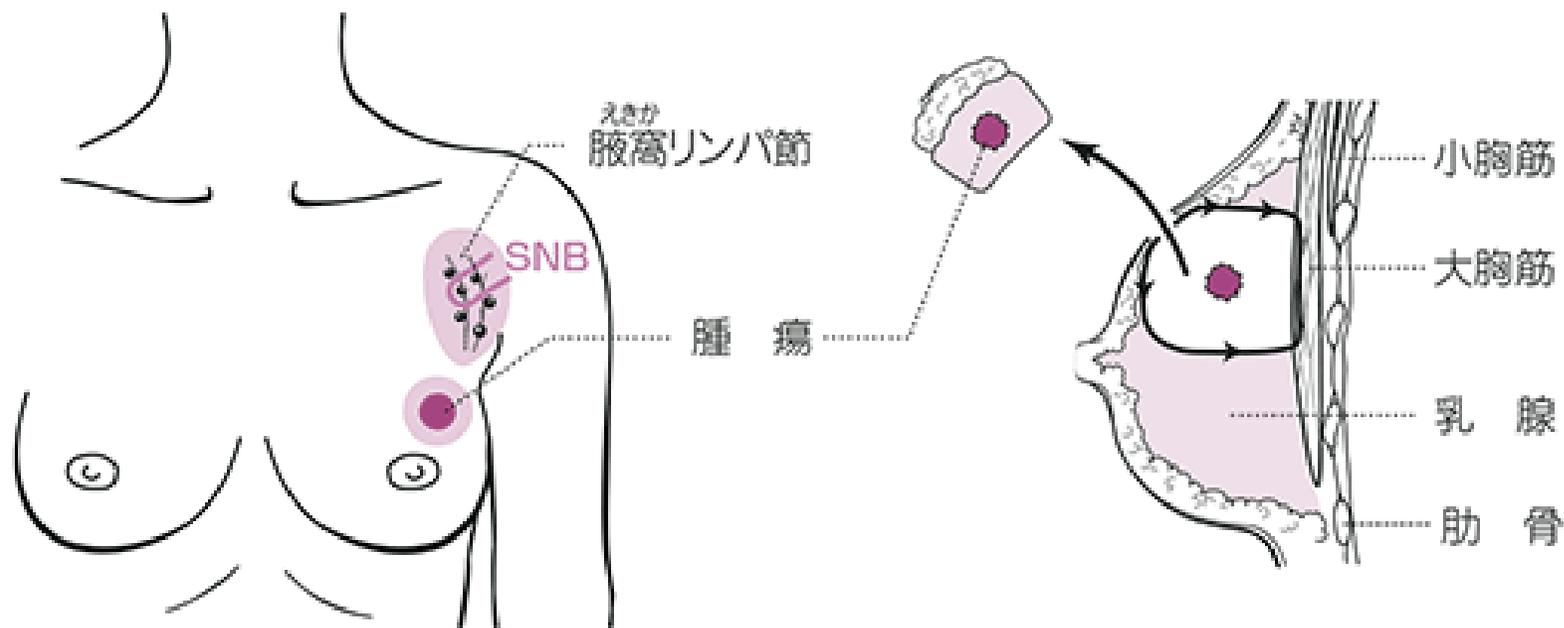
乳房扇状部分切除術



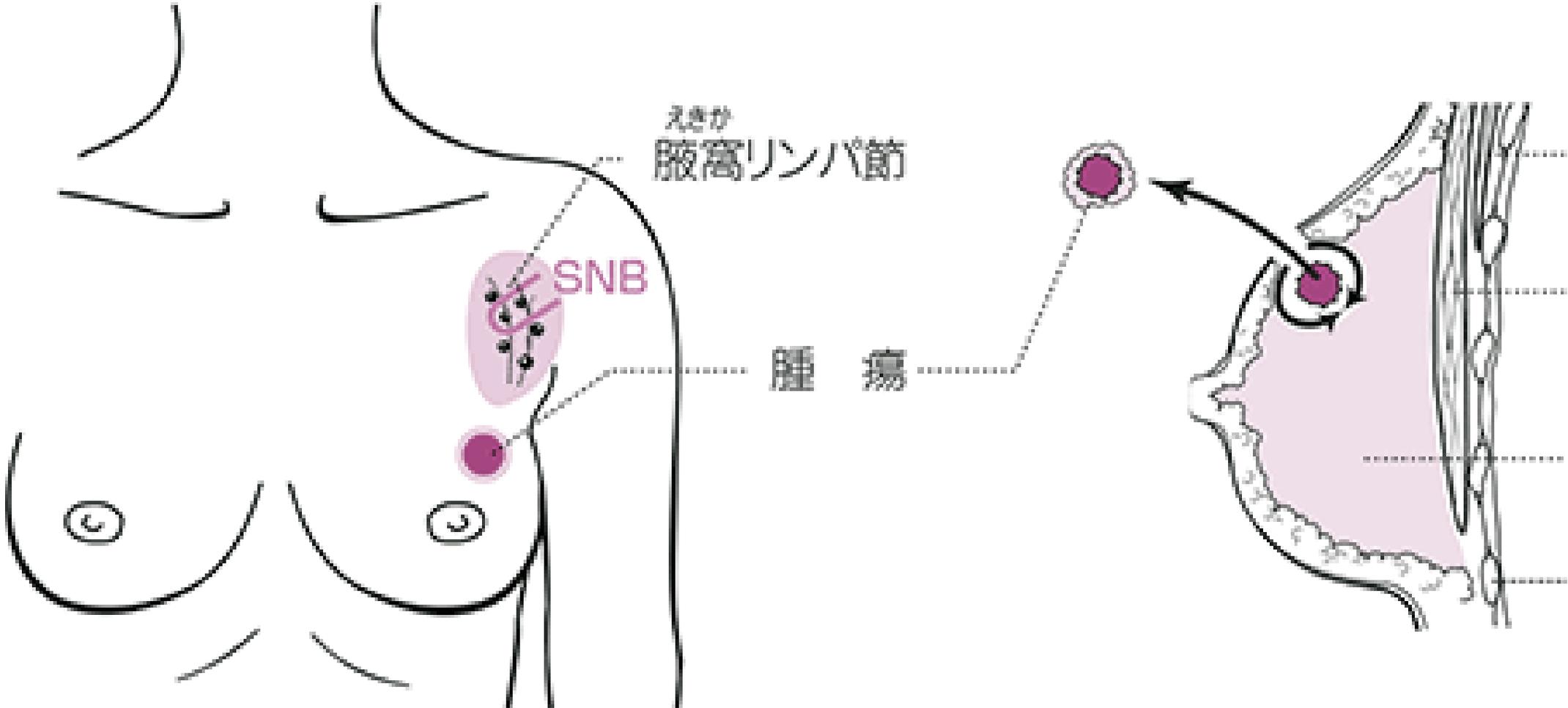
乳房円状部分切除術



えんじょう
乳房円状部分切除術

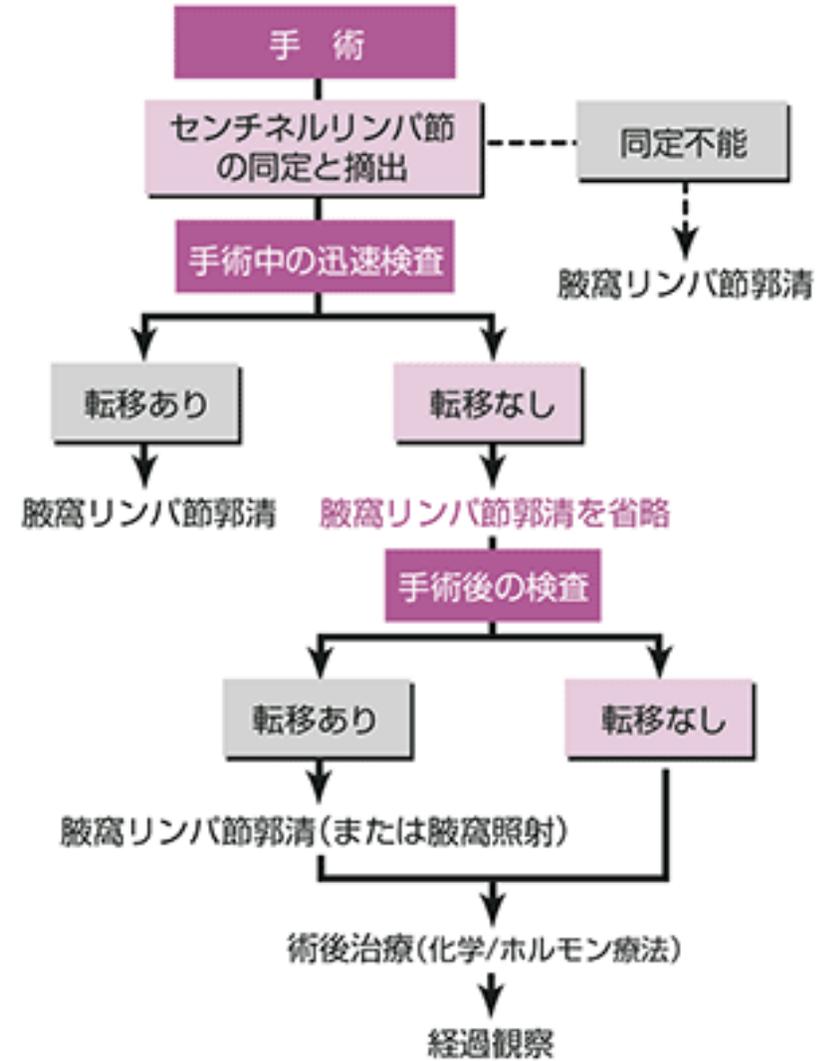
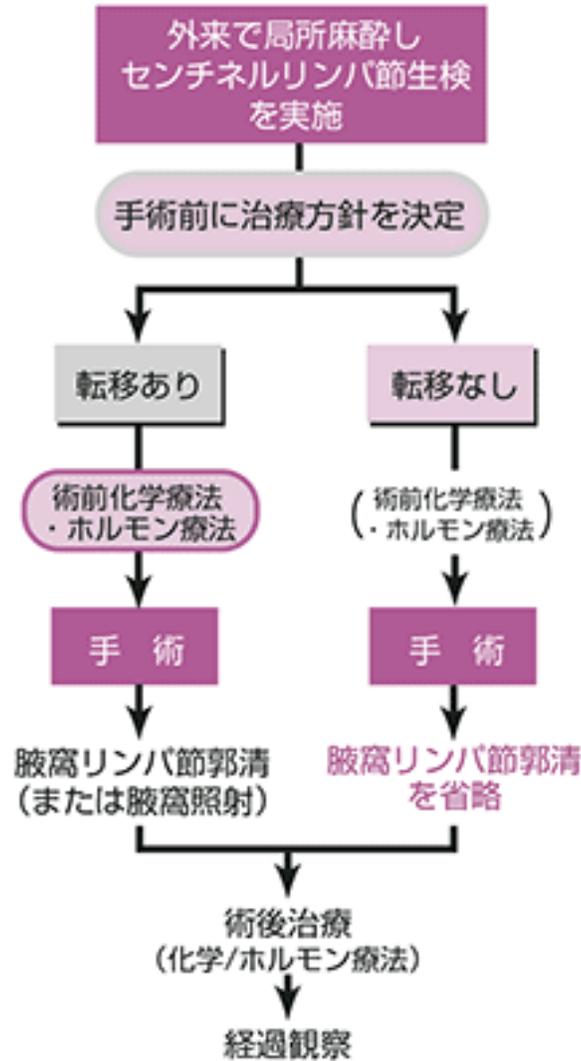


腫瘍摘出術



センチネルリンパ節生検

センチネルリンパ節生検の結果と治療方針



乳癌の薬物療法

- 化学療法(分子標的薬を含む)
 - アンスラサイクリン+タキサン併用療法
 - その他
 - イリノテカン
 - カペシタビン(ゼローダ)
 - エリブリン(ハラヴェン)
 - トラスツズマブ(ハーセプチン) 抗HER2剤
- 内分泌療法
 - タモキシフェン(ノルバデックス) 抗エストロゲン剤
 - アナストロゾール(アリミデックス) 抗アロマトラーゼ阻害剤
(アフエマ、フェマーラ、アロマシンなど)

乳癌薬剤治療の選択 (St.Gallen2011)

	ER (エストロゲン)	PgR (プロゲステロン)	HER2	Ki-67	
Luminal A	陽性	いずれか 陽性	陰性	<14%	内分泌療法 単独
Luminal B (HER2陰性)	陽性	いずれか 陽性	陰性	15%≤	内分泌療法 ± 化学療法
Luminal B (HER2陽性)	陽性	いずれか 陽性	陽性	?	化学療法 + 抗HER2療法 + 内分泌療法
Erb-B2 過剰発現	陰性	かつ 陰性	陽性	?	化学療法 + 抗HER2療法
Basal like	陰性	かつ 陰性	陰性	?	化学療法

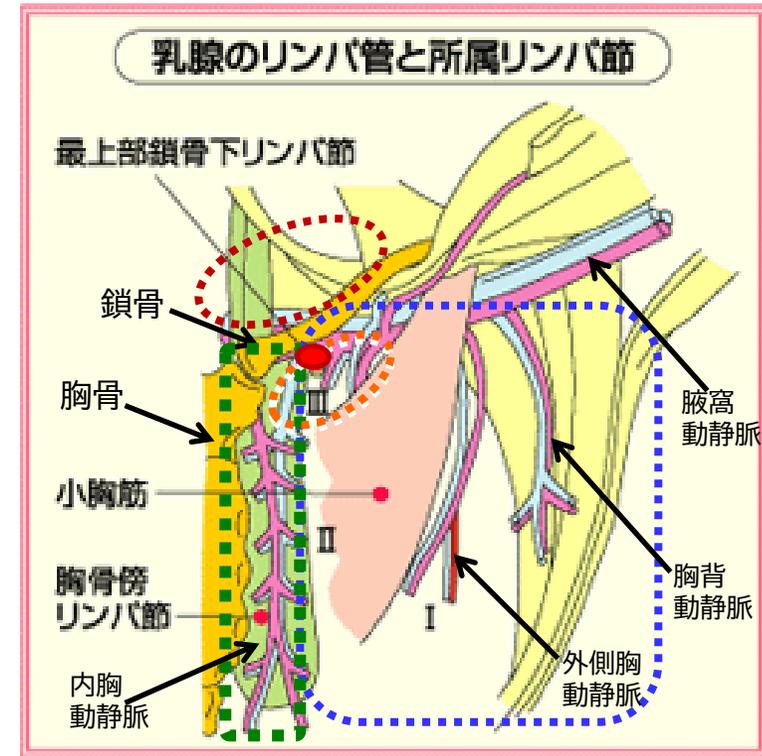
放射線療法

- 腋窩～鎖骨上窩照射(リンパ節転移)
 - 転移4個以上で鎖骨上窩照射が推奨
 - 1～3個でも、鎖骨上窩照射を要検討
 - 照射は接線照射
- 傍胸骨リンパ節照射
 - 傍胸骨リンパ節転移がある場合は推奨



乳がんのリンパ節郭清

- 領域リンパ節は
 - 腋窩リンパ節
 - 内胸リンパ節
- 腋窩リンパ節郭清(Ax)
結合組織がかなりなくなるので、術後の管理がたいへん
- センチネルリンパ節生検(SNB)
リンパの流れを確認してリンパ節をたどって、郭清していく



乳がんの放射線療法・薬物療法

●放射線療法

- リンパ節領域に併用されることが多い。
- 腋窩・胸壁などに照射される。

●薬物療法

- 化学療法
エンドキサン、アドリアシンが主体。
- 分子標的薬
- 内分泌療法
サブクラス分類に合わせて選択。

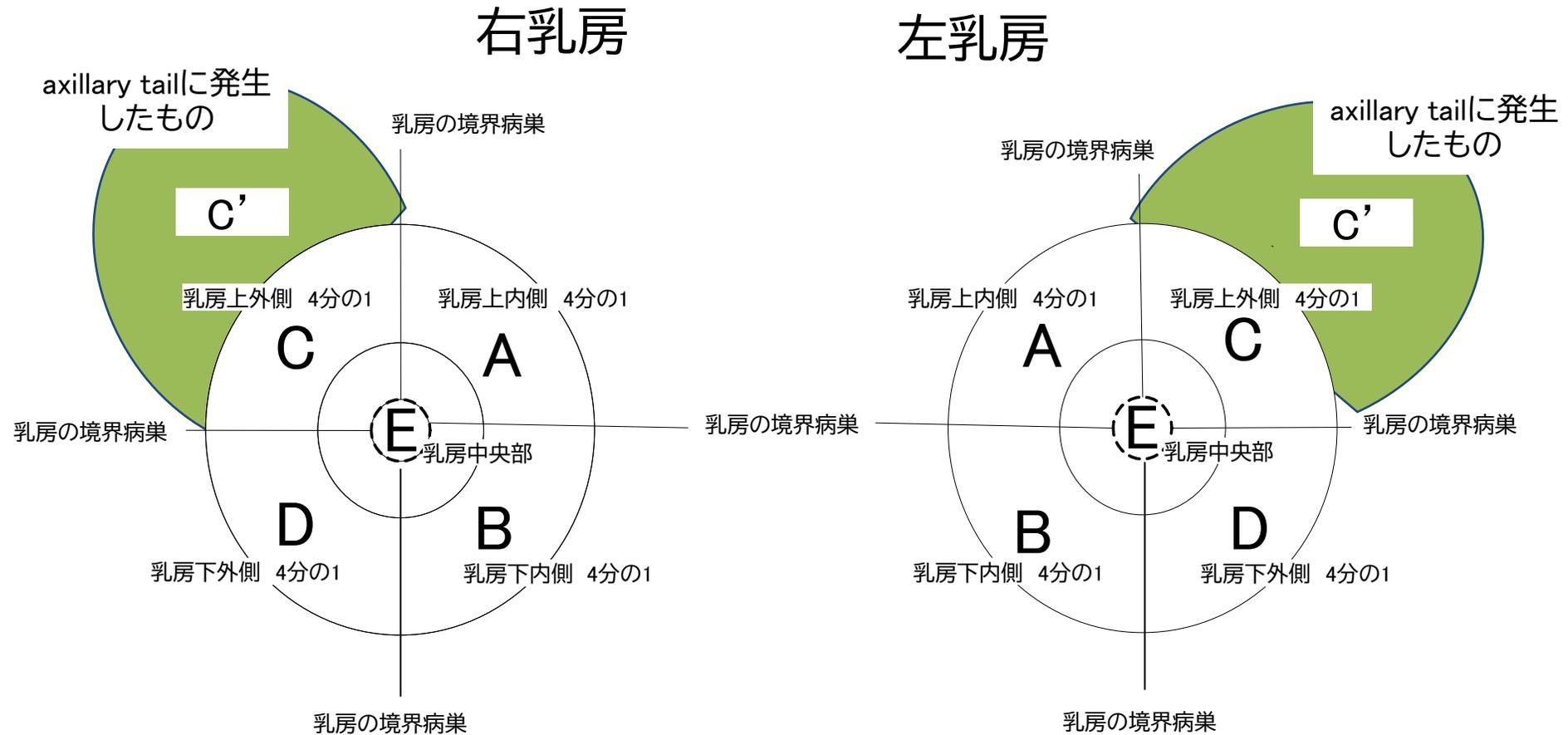
乳がんにおける主な化学療法の標準使用例

療法名	薬剤	投与量 (mg/m ²)	投与方法 ^①	投与スケジュール	
				投与日 /サイクル	サイクル
GMF(classical)療法	CPA	100	経口	1~14日目	28日毎 6サイクル
	MTX	40	静注	1日目,8日目	
	5-FU	600	静注	1日目,8日目	
AC療法	CPA	600	静注	1日目	21日毎
	ADR	60	静注	1日目	4サイクル
CAF療法 (FAC療法)	CPA	500	静注	1日目	21日毎 6サイクル
	ADR	50	静注	1日目	
	5-FU	500	静注	1日目	
CAF(分割)療法	CPA	100	経口	1~14日目	28日毎 6サイクル
	ADR	30	静注	1日目,8日目	
	5-FU	500	静注	1日目,8日目	
FEC療法	CPA	500	静注	1日目	21日毎 6サイクル
	EPI	60~100	静注	1日目	
	5-FU	500	静注	1日目	
CEF療法 (Canada NCI)	CPA	75	経口	1~14日目	28日毎 6サイクル
	EPI	60	静注	1日目,8日目	
	5-FU	500	静注	1日目,8日目	
3週毎ドセタキセル	DTX	60~75	静注	1日目	21日毎 未定
3週毎パクリタキセル	PTX	170 (~210)	静注	1日目	21日毎 4サイクル
Weeklyパクリタキセル	PTX	80 (~100)	静注	1日目	7日毎 未定



乳がんの病期分類

局在(部位)と亜部位



原発部位とICD-O-3局在コード

ICD-O-3 局在コード	取扱い規約の 部位表現	診療情報所見
C50.0		乳頭および乳輪
C50.1	E (乳輪部)	乳房中央部
C50.2	A (乳房内上部)	乳房上内側4分の1
C50.3	B (乳房内下部)	乳房下内側4分の1
C50.4	C (乳房外上部)	乳房上外側4分の1
C50.5	D (乳房外下部)	乳房下外側4分の1
C50.6	C' (乳房の腋窩尾部)	乳房腋窩尾部 乳腺の尾部,NOS
C50.8	AB, AC・・・等 「2つ以上の領域にまたがり、主占拠部位を決定できる情報がない場合」 ※取扱い規約の記載方法に従っているかを確認する。	乳房の境界部病巣 外側乳房 上部乳房 内側乳房 下部乳房 乳房正中線部
C50.9		乳房,NOS 乳腺

形態コード(組織型) 《乳腺》

その1

規約
第18版
(2018)

部位別
TEXT
25/06

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
非浸潤癌	Noninvasive carcinoma	
非浸潤性乳管癌	Ductal carcinoma in situ	8500/2
非浸潤性小葉癌	Lobular carcinoma in situ	8520/2
被包型乳頭癌	Encapsulated papillary carcinoma	8504/2
乳房Paget病、上皮内	Paget's Disease, mammary, in situ	8540/2
浸潤癌	Invasive carcinoma	
浸潤性乳管癌	Invasive ductal carcinoma	8500/3
腺管形成型	Tubule forming type	8500/31
充実型	Solid type	8500/32
硬性型	Scirrhous type	8500/33
その他の型	Other type	8500/39
特殊型	Special types	
浸潤性小葉癌	Invasive lobular carcinoma	8520/3
管状癌	Tubular carcinoma	8211/3
篩状癌	Invasive cribriform carcinoma	8201/3
粘液癌	Mucinous carcinoma	8480/3
髓様癌	Medullary carcinoma	8510/3
アポクリン癌	Apocrine carcinoma	8401/3

形態コード(組織型) 《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
浸潤癌(つづき)	Invasive carcinoma	
特殊型(つづき)	Special types	
化生癌	Metaplastic carcinoma	
扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	8070/3
間葉系分化を伴う癌	Carcinoma w/ mesenchymal differentiation	
紡錘細胞癌	Spindle cell carcinoma	8572/3
骨・軟骨化生を伴う癌	Carcinoma w/ osseous/cartilaginous diff.	8571/3
基質産生癌	Matrix-producing carcinoma	8575/3
癌肉腫	Carcinosarcoma	8980/3
浸潤性微小乳頭状癌	Invasive micropapillary carcinoma	8507/3
分泌癌	Secretory carcinoma	8502/3
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	8200/3
その他	Other	
浸潤を伴う被包型乳頭癌	Encapsulated papillary ca. w/ invasion	8504/3
パジェット病	Paget's disease	8540/3
葉状腫瘍、悪性 (葉状嚢胞肉腫、悪性)	Phyllodes tumor, malig (Cystosarcoma phyllodes, malig)	9020/3
間質肉腫	Stromal sarcoma	8935/3
血管肉腫	Hemangiosarcoma	9120/3
リンパ管肉腫	Lymphangiosarcoma	9170/3

形態コード(組織型)

その2

《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O4
乳頭状腫瘍	Papillary neoplasms		
乳管内乳頭腫	Intraductal papilloma	8503/0	
乳管内癌、乳頭状	Ductal carcinoma in situ, papillary (IPC)	8503/2	
被包型乳頭癌	Encapsulated papillary carcinoma (EPC)	8504/2	
被包型乳頭癌、浸潤性	Encapsulated papillary ca. w/ invasion	8504/3	
充実性乳頭癌、非浸潤性	Solid papillary carcinoma in situ	8509/2	
充実性乳頭癌、浸潤性	Solid papillary carcinoma w/ invasion	8509/3	
乳管内乳頭癌、浸潤を伴うもの	Intraductal papillary adenoca. w/ invasion	8503/3	
非浸潤性小葉癌	Non-invasive lobular neoplasia		
異型小葉過形成	Atypical lobular hyperplasia (ALH)		
小葉癌、非浸潤性	Lobular carcinoma in situ NOS	8520/2	
古典的	Classic lobular carcinoma in situ	8520/2	
開花期腺症	Florid lobular carcinoma in situ	8520/2	
非浸潤性小葉癌、多形型	Lobular carcinoma in situ, pleomorphic	8519/2	
非浸潤性乳管癌(DCIS)	Ductal carcinoma in situ (DCIS)		
導管内癌、非浸潤性	Intraductal carcinoma, non-infiltrating, NOS	8500/2	
DCIS 、軽度 核異型度	DCIS of low nuclear grade	8500/2	
DCIS 、中等度 核異型度	DCIS of intermediate nuclear grade	8500/2	
DCIS 、高度 核異型度	DCIS of high nuclear grade	8500/2	

形態コード(組織型)

その3

《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O4
浸潤性乳癌	Invasive breast carcinoma		
浸潤性導管癌、NOS	Infiltrating duct carcinoma NOS	8500/3	
オンコサイト癌(好酸性癌)	Oncocytic carcinoma	8290/3	
脂質分泌癌	Lipid-rich carcinoma	8314/3	
グリコーゲン(淡明細胞)癌	Glycogen-rich carcinoma	8315/3	
脂腺癌	Sebaceous carcinoma	8410/3	
小葉癌、NOS	Lobular carcinoma NOS	8520/3	
管状癌	Tubular carcinoma	8211/3	
篩状癌、NOS	Cribriform carcinoma NOS	8201/3	
粘液腺癌	Mucinous adenocarcinoma	8480/3	
粘液性嚢胞腺癌	Mucinous cystadenocarcinoma NOS	8470/3	
浸潤性微小乳頭癌	Invasive micropapillary carcinoma of breast	8507/3	
アポクリン腺癌	Apocrine adenocarcinoma	8401/3	
化生癌、NOS	Metaplastic carcinoma NOS	8575/3	
稀な腫瘍・唾液腺型腫瘍	Rare and salivary gland-type tumours		
腺房細胞癌	Acinar cell carcinoma	8550/3	
腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	8200/3	
古典的(通常型)腺様嚢胞癌	Classic adenoid cystic carcinoma	8200/3	
充実基底細胞様腺様嚢胞癌	Solid-basaloid adenoid cystic carcinoma	8200/3	
高悪性度転化を伴った腺様嚢胞癌	Adenoid cystic ca. w/ high-grade transform.	8200/3	

形態コード(組織型)

その4

《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O4
稀な腫瘍・唾液腺型腫瘍(つづき)	Rare and salivary gland-type tumours		
分泌癌	Secretory carcinoma	8502/3	
粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	8430/3	
多形腺癌	Polymorphous adenocarcinoma	8525/3	
細胞極性の反転を伴う高細胞癌	Tall cell carcinoma with reversed polarity	8509/3	
神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine neoplasms		
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumour NOS	8240/3	
神経内分泌腫瘍、G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/3	
神経内分泌腫瘍、G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/3	
神経内分泌癌、NOS	Neuroendocrine carcinoma NOS	8246/3	
～、小細胞型	Neuroendocrine carcinoma, small cell	8041/3	
～、大細胞型	Neuroendocrine carcinoma, large cell	8013/3	

形態コード(組織型)

その5

《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-04
線維上皮性腫瘍	Fibroepithelial tumours and hamartomas		
過誤腫	Hamartoma		
線維腺腫	Fibroadenoma	9010/0	
葉状腫瘍	Phyllodes tumour	9020/1	
葉状腫瘍、良性	Phyllodes tumour, benign	9020/0	
葉状腫瘍、境界悪性	Phyllodes tumour, borderline	9020/1	
葉状腫瘍、悪性	Phyllodes tumour, malignant	9020/3	
乳管傍間質肉腫	Periductal stromal sarcoma	9020/3	
乳頭部の腫瘍	Tumor of the nipple		
上皮性腫瘍	Epithelial tumours		
汗管様腫瘍	Syringomatous tumour	8407/0	
乳頭腺腫	Nipple adenoma	8506/0	
乳頭Paget病	Paget disease of the breast	8540/3	
間葉系腫瘍	Mesenchymal tumours		
血管系腫瘍	Vascular tumours		
血管腫	Haemangioma	9120/0	
血管腫症	Angiomatosis		
異型血管病変	Atypical vascular lesions		
放射線治療後血管肉腫	Postradiation angiosarcoma	9120/3	
原発性血管肉腫	Primary angiosarcoma	9120/3	

形態コード(組織型)

その6

《乳腺》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード	ICD-O4
間葉系腫瘍(つづき)	Mesenchymal tumours		
線維芽・筋線維芽細胞性腫瘍	Fibroblastic and myofibroblastic tumours		
結節性筋膜炎	Nodular fasciitis	8828/0	
筋線維芽腫	Myofibroblastoma	8825/0	
デスモイド線維腫症	Desmoid fibromatosis	8821/1	
炎症性筋線維芽腫瘍	Inflammatory myofibroblastic tumour	8825/1	
末梢神経鞘腫瘍	Peripheral nerve sheath tumours		
シュワン細胞腫	Schwannoma	9560/0	
神経線維腫	Neurofibroma	9540/0	
顆粒細胞腫瘍	Granular cell tumour		
顆粒細胞腫瘍、NOS	Granular cell tumour, NOS	9580/0	
顆粒細胞腫瘍、悪性	Granular cell tumour, malignant	9580/3	
平滑筋腫瘍	Smooth muscle tumours		
平滑筋腫	Leiomyoma	8890/0	
平滑筋肉腫	Leiomyosarcoma	8890/3	
脂肪細胞性腫瘍	Adipocytic tumours		
脂肪腫	Lipoma	8850/0	
血管脂肪腫	Angiolipoma	8861/0	
脂肪肉腫	Liposarcoma	8850/3	
他の間質性腫瘍・腫瘍性病変	Other mesenchymal tumours & tumour-like cond.		
偽血管腫様間質過形成	Pseudoangiomatous stromal hyperplasia		

注意すべき形態コード 《乳房》

□ 浸潤性導管癌(浸潤性乳管癌)

腺管形成型 **8500/31**

以前の呼び名 papillo-tubular carcinoma

充実型 **8500/32**

以前の呼び名 solid-tubular carcinoma

硬性型 **8500/33**

以前の呼び名 scirrhous carcinoma

非浸潤性乳管癌は
8500/2



※ わが国のがん登録における独自ルール:

わが国で用いられてきた詳細な亜分類であるため、分類は残しつつ、国際的に比較するため「浸潤性導管癌」にまとめて集計できるようコード。

組織学的グレード分類

● Nottingham分類

1) 組織学的グレードの判定：腺管形成スコア + 核異型スコア + 核分裂像スコアの合計

Grade I : 3~5 点

Grade II : 6~7 点

Grade III : 8~9 点

2) 腺管形成スコア

1 点：腫瘍の 75% 超に明らかな腺管形成がみられる。

2 点：腫瘍の 10~75% に腺管形成がみられる。

3 点：腺管形成は腫瘍の 10% 未満である。

3) 核異型スコア

1 点：核の大きさ，形態，クロマチンが均一。

2 点：1 と 3 の中間

3 点：核の大小不同，形態不整が目立つ。クロマチンの増量，不均等分布が目立ち，大型の核小体を有することがある。

4) 核分裂像スコア

1~3 点：高倍(対物レンズ 40×)10 視野あたりの核分裂像の数で分類する。スコアのカットオフ値は視野径により異なる*。

核グレード分類(取扱い規約第18版)

- 核グレード
- 核異型スコア
- 核分裂像スコア

1)核グレードの判定：核異型スコア+核分裂像スコアの合計

Grade 1：2～3点

Grade 2：4点

Grade 3：5～6点

2)核異型スコア

1点：核の大きさ，形態が一様で，クロマチンは目立たない。

2点：1と3の間

3点：核の大小不同，形態不整が目立つ。クロマチンの増量，不均等分布が目立ち，大型の核小体を有することがある。

3)核分裂像スコア：低～中倍で分裂像の目立つ部分を選んだ後，高倍(対物レンズ40×)で観察する。

1～3点：スコアのカットオフ値は視野径により異なる*。

核分裂像の算定基準補正

接眼レンズの 視野数	組織学的グレード			核グレード			接眼レンズの種類
	高倍(対物レンズ40×)10視野 あたりの核分裂像の数(個)			高倍(対物レンズ40×)10視野 あたりの核分裂像の数(個)			
	スコア1	スコア2	スコア3	スコア1	スコア2	スコア3	
20	0~7	8~14	15以上	0~4	5~10	11以上	WHK 10×
21	0~8	9~16	17以上	0~5	6~11	12以上	CFW 10×, CFWN 10×
22	0~8	9~17	18以上	0~5	6~12	13以上	CFI 10×, WH 10×
25	0~11	12~22	23以上	0~7	8~15	16以上	CFIUW 10×
26.5	0~12	13~24	25以上	0~8	9~17	18以上	SWH 10×, SWHK 10×
27	0~13	14~26	27以上	0~9	10~18	19以上	CFUWN 10×

早期乳癌

- 早期乳癌 (**EBC**) (取扱い規約第**18**版)
 - 0期・I期 → 0期～ⅢA期 (ガイドライン**2022**)
- 切除可能局所進行乳癌
 - ⅢA期
- 局所進行乳癌 (**LABC**)
 - ⅢB期、ⅢC期
- 転移乳癌・再発乳癌 (**MBC**)

Early breast Cancer (欧米)
Stage 0-ⅢA

Advanced breast Cancer
(**ABC**)

T分類(UICC第8版) 《乳腺》

TX 原発腫瘍の評価が不可能。

T0 原発腫瘍を認めない。

Tis 非浸潤癌

Tis(DCIS) 非浸潤性乳管癌

Tis(LCIS) 非浸潤性小葉癌

Tis(Paget) ← 乳腺実質に病変がある場合は、大きさや性状で分類

T1 最大径が**2cm**以下の腫瘍

T1mi 最大径 \leq **0.1cm**の微小浸潤

T1a **0.1cm** < 最大径 \leq **0.5cm**

T1b **0.5cm** < 最大径 \leq **1.0cm**

T1c **1.0cm** < 最大径 \leq **2.0cm**

※pT分類では、
腫瘍径は
浸潤径:浸潤部の大きさを用いる。

T分類(UICC第8版) 《乳腺》

T2 2.0cm < 最大径 ≤ **5.0cm**

T3 5.0cm < 最大径

T4 腫瘍の大きさに関係なく、
胸壁※¹および／または皮膚※²へ直接浸潤をする腫瘍。

T4a 胸壁への広がり(胸筋浸潤は含まない)

T4b 潰瘍形成、同側乳房の衛星皮膚結節、
または皮膚の浮腫(橙皮状皮膚を含む)

T4c **T4a**と**T4b**の両方

T4d 炎症性乳癌

※pT分類では、
腫瘍径は
浸潤径:浸潤部の大きさを用いる。

※¹ 胸壁は、肋骨・肋間筋・前鋸筋を含むが、胸筋は含めない。

※² 真皮への浸潤だけでは**T4**としない。

T分類の考え方(UICC第8版) 《乳腺》

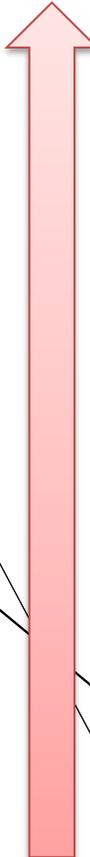
以下の①～③の情報を確認して判定する。

- ①**皮膚浸潤**を理学的検査(視診/触診/聴診など)で評価する。
視診:皮膚潰瘍形成、浮腫(peu d'orange:橙皮状皮膚を含む)
触診:皮膚衛星結節
- ②**胸壁浸潤**を理学的検査(視診/触診/聴診など)で評価する。
触診:胸壁(小胸筋、大胸筋は含まない)に固定して
可動性がなくなっているかを評価する。
- ③**最大浸潤径**をMMG(マンモグラフィー)、超音波検査、MRI等の画像診断で評価する。
病理学的分類(pT分類)は
手術標本の**浸潤部分の最大径**で測定・評価する。

T分類のまとめ(UICC第8版)

《乳腺》

		最大径	胸壁固定	皮膚所見
Tis			なし	なし
T1	T1mi	最大径 ≤ 0.1cm	なし	なし
	T1a	0.1cm < 最大径 ≤ 0.5cm	なし	なし
	T1b	0.5cm < 最大径 ≤ 1.0cm	なし	なし
	T1c	1.0cm < 最大径 ≤ 2.0cm	なし	なし
T2		2.0cm < 最大径 ≤ 5.0cm	なし	なし
T3		5.0cm < 最大径	なし	なし
T4	T4a	腫瘍最大径と無関係	あり	なし
	T4b	腫瘍最大径と無関係	なし	あり
	T4c	腫瘍最大径と無関係	あり	あり
	T4d	腫瘍最大径と無関係	炎症性乳癌の記載	



領域リンパ節(取扱い規約第18版)

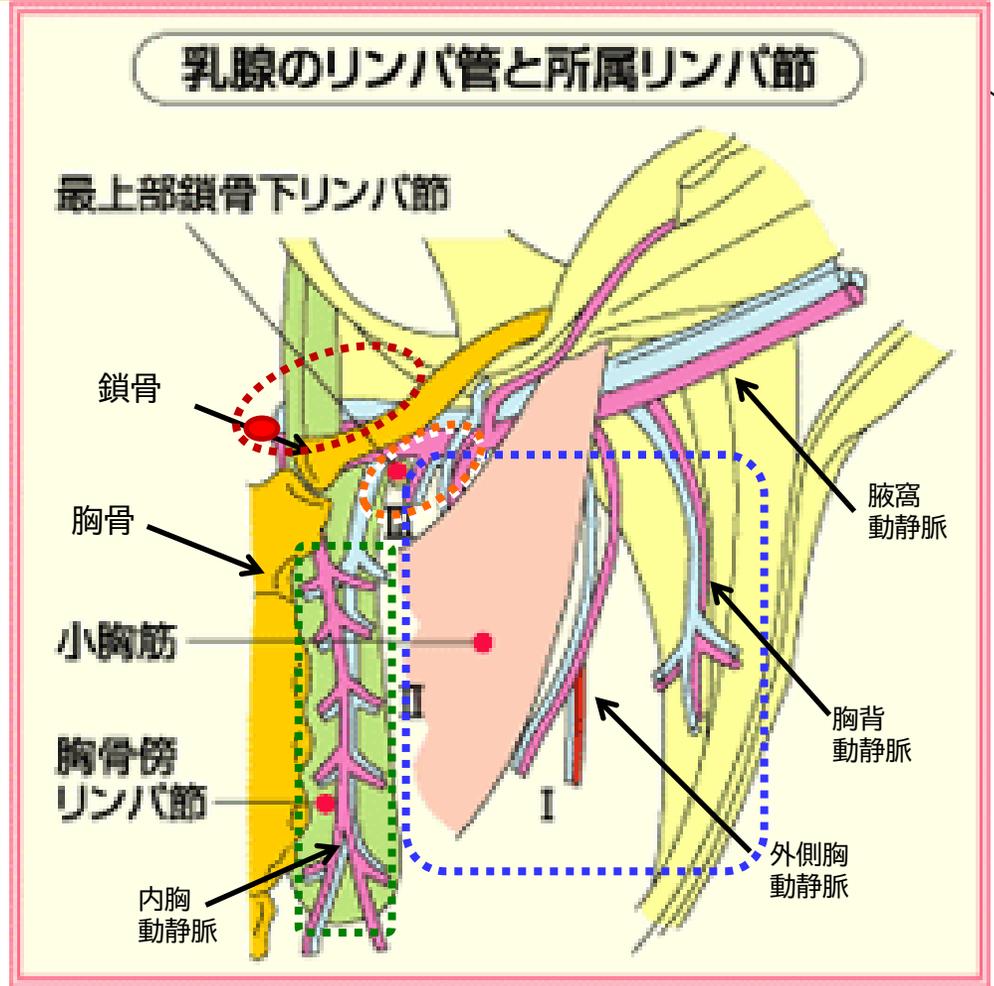
●腋窩リンパ節 レベルⅠ
小胸筋の外側

●腋窩リンパ節 レベルⅡ
小胸筋の裏(胸筋間も含む)

●腋窩リンパ節 レベルⅢ
小胸筋の内側
※ 鎖骨下リンパ節に相当

●内胸リンパ節

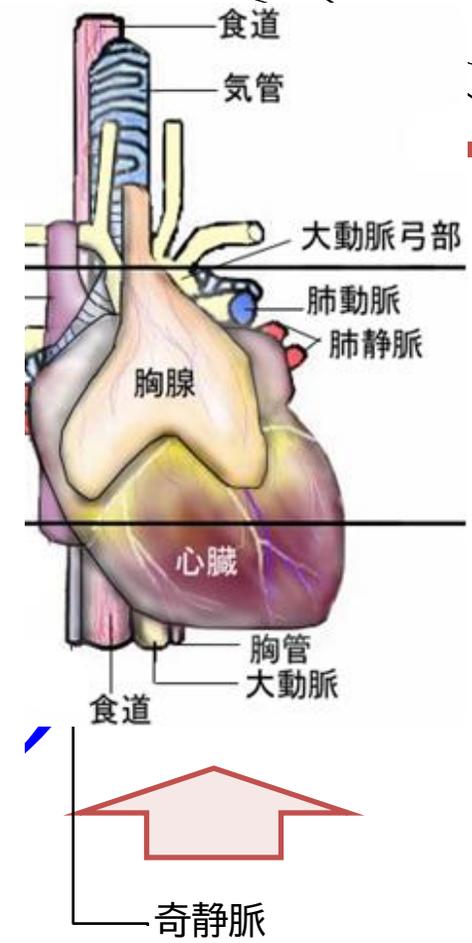
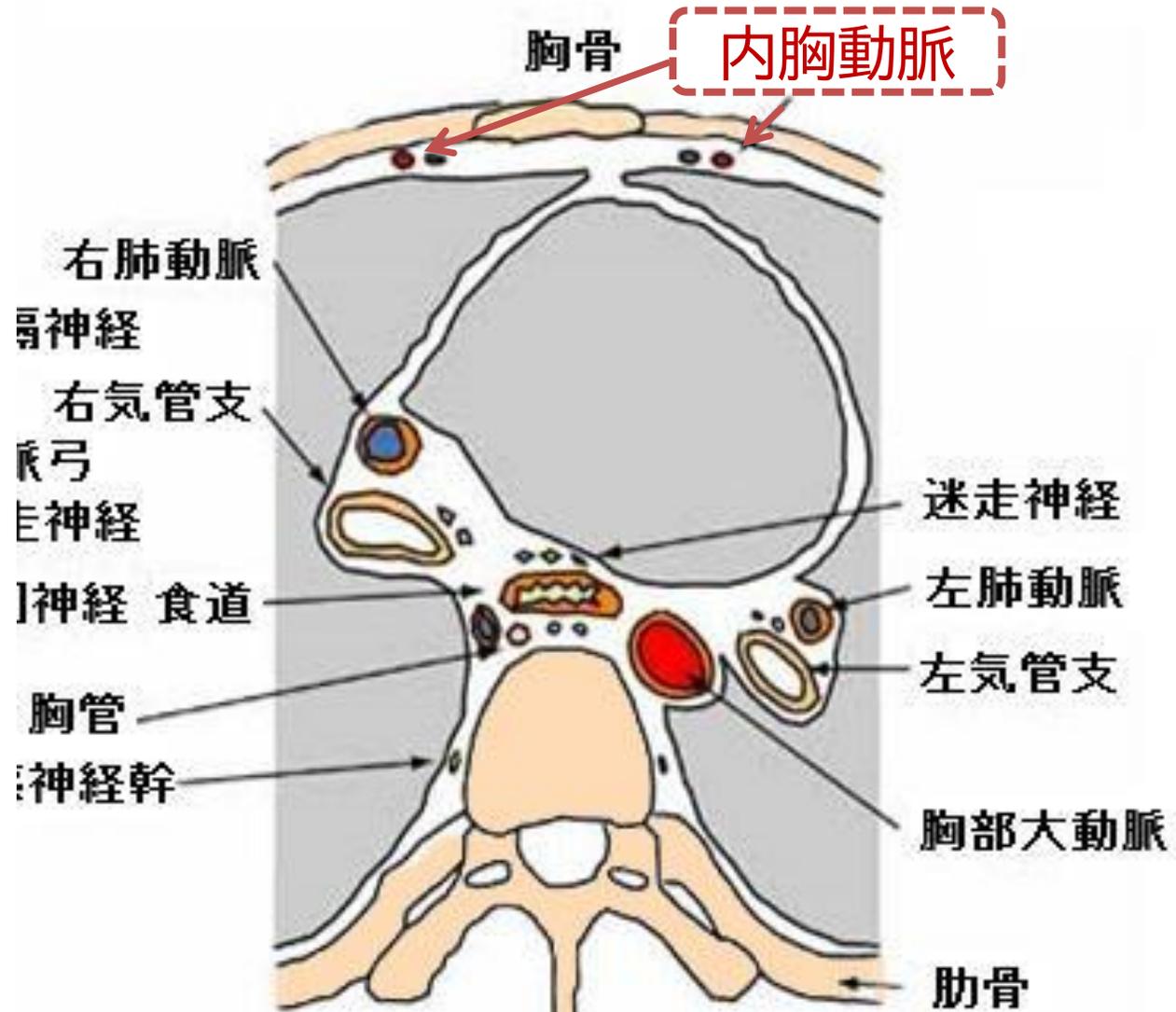
●鎖骨上リンパ節



※ 腋窩LNレベルⅢ ≠ 鎖骨下LNだが、わが国では同じものと扱う

※ 乳房内のリンパ節は、腋窩リンパ節に含まれる。

縦隔と内胸リンパ節



N分類【臨床分類】(UICC第8版)

《乳房》

UICC TNM分類 【第8版】		腋窩リンパ節 (レベルⅠ、レベルⅡ)		内胸 リンパ節	鎖骨下 リンパ節 (レベルⅢ)	鎖骨上 リンパ節
		可動	固定			
cN0		なし	なし	なし	なし	なし
cN1		あり	なし	なし	なし	なし
cN2	cN2a	?	あり	なし	なし	なし
	cN2b	なし	なし	あり	なし	なし
cN3	cN3a	?	?	?	あり	なし
	cN3b	可動/固定いずれか あり		あり	なし	なし
	cN3c	?	?	?	?	あり

「？」は、転移陽性／陰性いずれでもかまわない

N分類【病理学的分類】(UICC第8版)

《乳房》

UICC TNM分類 【第8版】		腋窩リンパ節 (レベルI、レベルII)	内胸 リンパ節	鎖骨下 リンパ節 (レベルIII)	鎖骨上 リンパ節
pN0		なし	なし	なし	なし
pN1	pN1mi	0.2mm < 微小転移の大きさ ≤ 2.0mm または 2.0mm以下の転移で細胞数200以上			
	pN1a	1~3個	なし	なし	なし
	pN1b	なし	微小転移	なし	なし
	pN1c	1~3個	微小転移	なし	なし
pN2	pN2a	4~9個	なし	なし	なし
	pN2b	なし	あり	なし	なし
pN3	pN3a	10個以上	なし	なし	なし
		?	?	1個以上	なし
	pN3b	1個以上	1個以上	なし	なし
		4個以上	微小転移	なし	なし
	pN3c	?	?	?	1個以上

M分類(UICC第8版) 《乳房》

MX 遠隔転移の評価が不可能

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

cM0(i+)

分子生物学的、あるいは顕微鏡的なdeposits(衛星結節)、
ないしは循環血液中・骨髄・所属外リンパ節に腫瘍細胞(0.2mm以下)を認めるとき。

ステージ (UICC第8版) 《乳房》

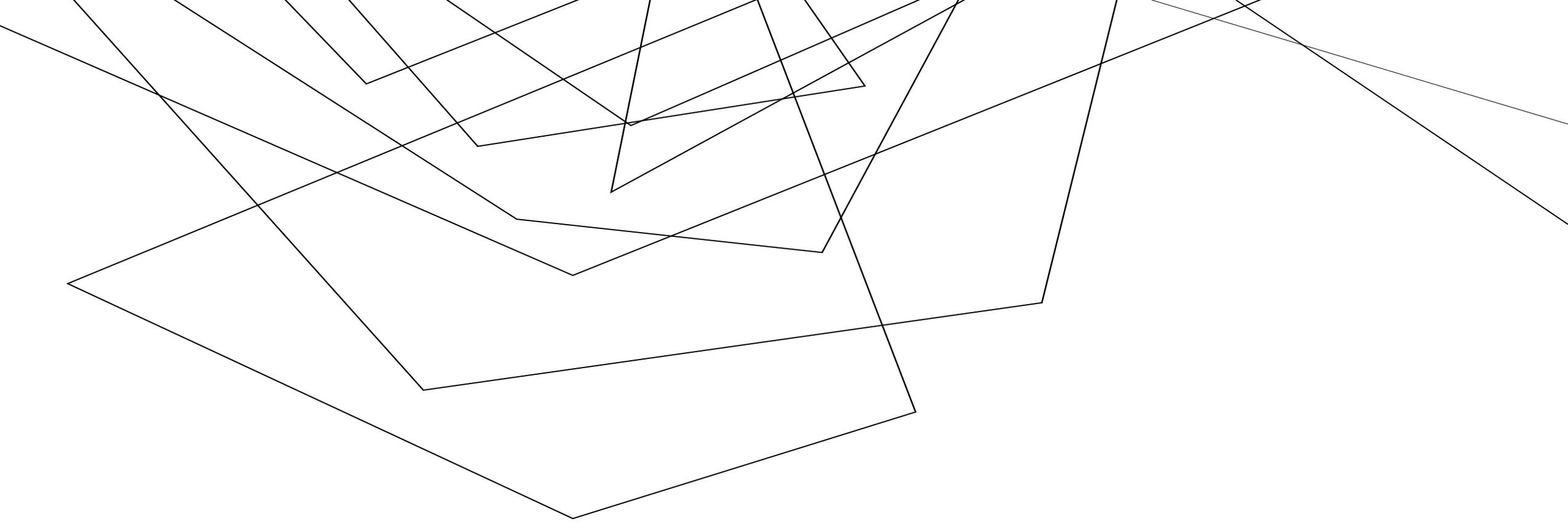
UICC TNM 分類 【第8版】		N0	N1				N2		N3		
			N1mi	N1a	N1b	N1c	N2a	N2b	N3a	N3b	N3c
T0			I B	II A			III A		III C		
Tis		0									
T1	T1mi	I A	I B	II A			III A		III C		
	T1a										
	T1b										
	T1c										
T2		II A	II B	II B			III A		III C		
T3		II B	III A	III A			III A		III C		
T4	T4a	III B	III B	III B			III B		III C		
	T4b										
	T4c										
	T4d										
M1		IV	IV	IV			IV		IV		

進展度(UICC第8版)《乳腺》

UICC TNM 分類 【第8版】		N0	N1				N2		N3		
			N1mi	N1a	N1b	N1c	N2a	N2b	N3a	N3b	N3c
T0			領域リンパ節転移				領域リンパ節転移		領域リンパ節転移		遠隔転移
Tis		上皮内									
T1	T1mi	限局	領域リンパ節転移				領域リンパ節転移		領域リンパ節転移		遠隔転移
	T1a										
	T1b										
	T1c										
T2		限局	領域リンパ節転移				領域リンパ節転移		領域リンパ節転移		遠隔転移
T3		限局	領域リンパ節転移				領域リンパ節転移		領域リンパ節転移		遠隔転移
T4	T4a	隣接 臓器浸潤	隣接臓器浸潤				隣接臓器浸潤		隣接臓器浸潤		遠隔転移
	T4b										
	T4c										
	T4d										
M1		遠隔転移	遠隔転移				遠隔転移		遠隔転移		遠隔転移

*1 非浸潤癌または腫瘍を認めないPaget病は上皮内とする。

*2 原発巣を認めない場合には、**T0**で限局とする。



多重がんのルール《乳房》

多重がんルール 《乳房》

不明	ルール番号	ルールの概要	判定
不明	M1	腫瘍個数不明	単発
単一	M2	単一腫瘍 & 炎症性乳癌	単発
単一	M3	単一腫瘍	単発
複数	M4	複数腫瘍 & 炎症性乳癌	単発
複数	M5	局在コード	多重
複数	M6	両側乳癌	多重
複数	M7	乳房Pagetと乳管癌	単発
複数	M8	臨床再発なし 5年ルール	多重
複数	M9	小葉癌	単発
複数	M10	別表右枠 亜型/変異型	多重
複数	M11	別表 同じ太枠	単発
複数	M12	別表 異なる太枠	多重
複数	M13	浸潤癌→上皮内癌	単発
複数	M14-15	上皮内癌→浸潤癌 60日ルール	単発/多重
複数	M16	上記以外	単発

多重がんルール 《乳房》

- 該当部位：
C500-C506、C508-C509

- 対象外
悪性リンパ腫・白血病 **M9590-M9993**
カポジ肉腫 **M9140**

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
不明	M1	単一腫瘍か複数腫瘍かが不明。	⇒ はい	単発
		● 全ての情報を使用しても不明の場合に適用する。		
		↓いいえ		
単一	M2	炎症性乳癌の診断で、以下のいずれかに該当。 ・両側乳房 ・同側乳房で、複数の領域(ICD-Oの局在コード)に存在。	⇒ はい	単発
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
単一	M3	単一腫瘍である	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 単一腫瘍は常に単発として扱う。 ● 隣接部位/亜部位にまたがる場合を含む。 ● 上皮内癌と浸潤癌の成分を有する場合を含む ● 複数の組織型を持つものを含む。 		
		↓いいえ		
複数	M4	炎症性乳癌の診断で、以下のいずれかに該当。 ・両側乳房 ・同側乳房で、複数の領域(ICD-Oの局在コード)に存在。	⇒ はい	単発
		↓いいえ		
複数	M5	ICD-O局在コードが C50_ である腫瘍と、それとは非連続な、局在コードの 2 桁目および/または 3 桁目(C XX X)が C50_ と異なる腫瘍とが存在する。 局在で確認	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 局在コードの左から2桁目または3桁目が異なる場合、原発部位が異なると扱う。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M6	両側の乳房に癌がある	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師記録の「両側乳癌」はさまざまな意味で使われることに注意。 ● 各乳房内にいくつの腫瘍があるかは無関係 ● 腫瘍の組織型は、同じでも、異なっても、良い。 		
		↓いいえ		
複数	M7	乳房Paget病とその同側乳房深部に 上皮内癌あるいは浸潤癌NST(乳管癌)が同時に存在する。	⇒ はい	単発
		No Special Type		
		<ul style="list-style-type: none"> ● この場合、局在コードを、深部の上皮内癌あるいは浸潤癌の存在する局在コードとし、形態コードは、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8543/3(Paget&上皮内癌) ・ 8541/3(Paget&浸潤癌) とする。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M8	1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断後、 満5年の間 、臨床的に再発を認めず (clinically disease-free)、その後 (5年を超えて) 、新たな腫瘍が発生した。	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床的に再発を認めない” (clinically disease-free)とは、以下を含む検査にて、経過観察中に再発所見を認めない状態を指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マンモグラフィー、CT・MRI等の画像検査 または 腫瘍マーカー ● 1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断日から5年以内に再発した場合、次の腫瘍の診断までの間隔はリセットされ、再発腫瘍が診断された時点から計算する。 ● 再発の記載がない、もしくは不明な場合、腫瘍の診断日が当該間隔の基準日とする。 ● 医師は、対象患者は過去に乳癌に罹患したという意味で、後の腫瘍に対して「再発」と記載することがあるが、医師の記載を採用せず、本ルールに従うこと。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M9	同時に存在する複数の腫瘍の組織型が 以下のように、癌腫NST(乳管癌)と小葉癌からなる、 ・全ての腫瘍の組織型が、乳管癌と小葉癌の混在型 ・一方が乳管癌で、他方が小葉癌 No Special Type 組織型の組合せで確認	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 腫瘍は、すべて同側乳房に存在すること。 ● 組織型は、すべて同じ性状コードであること。 ● 癌腫NST(乳管癌)〈carcinoma NST/duct〉は以下を含む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ DCIS ・ Carcinoma NST 8500/3 ・ Carcinoma w/osteoclastic-like stromal giant cells(癌腫NSTの亜型/変異型) ● 小葉癌〈Lobular carcinoma〉は以下を含む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ In situ lobular carcinoma ・ In situ Pleomorphic lobular carcinoma ・ Invasive lobular carcinoma 		
		↓いいえ		
複数	M10	同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、 「同義語と定義の表」中の右列において、互いに異なる亜型/変異型である。 別表で「右列」を確認	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 腫瘍の組織型は、互いに同じNOSの組織型の亜型/変異型でも、異なる NOSの組織型の亜型/変異型でも、本ルールを適用し、多重と登録する。 		
		↓いいえ		

・Encapsulated papillary carcinoma with invasion とSolid papillary carcinoma with invasion は、どちらもInvasive papillary carcinoma 8503/3の亜型だが、両者の組織型は異なるため、多重。
 ・Encapsulated papillary carcinoma はPapillary carcinoma in situ 8503/2の亜型/変異。
 Pleomorphic lobular carcinoma in situ はLobular carcinoma in situ 8520/2の亜型/変異型である。これらの組織型は異なるため、多重と登録する。

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M11	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍が同側乳房にあり、「同義語と定義の表」において、同じ太枠に属している。</p> <p>側性で確認 別表で「同じ太枠」か確認</p>	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 腫瘍は同側乳房である必要がある。 ● これら腫瘍の性状コードは同じである必要がある。 もし一つの腫瘍が上皮内癌で、他の腫瘍が浸潤癌であった場合、本ルールを適応せずにM8以降に進む。 ● 「同じ太枠」とは、以下のいずれかを指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての腫瘍が同じ組織型(4桁の同じICD形態コード) ・1つの腫瘍の組織型が表の左列に該当し、他の腫瘍の組織型がその同義語(中列)に該当。 ・1つの腫瘍の組織型がいずれかのNOS(左列あるいは中列)に該当し、他の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型(同じ太枠内の右列)に該当 		
		↓いいえ		
複数	M12	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」において異なる太枠に属している。</p> <p>別表で「異なる太枠」か確認</p>	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 腫瘍の組織型が互いに異なる太枠に属する場合、それらは明確に異なる組織型である。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M13	浸潤癌の診断後、その浸潤癌と同側の乳房に上皮内癌が診断された。 <<注記>>この場合、浸潤癌を登録する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 側性で確認 浸潤癌後に上皮内癌？ </div>	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 一度、浸潤癌に罹患した後に上皮内癌が発生した場合、がん登録において、その上皮内癌は再発腫瘍とみなす。 ● 本ルールは階層的であり、M1～M12が該当しない場合に適用すること。 ● 腫瘍はいずれかのNOSとそのNOSの亜型/変異型であってもよい。(同義語と定義の表を参照) 		
		↓いいえ		
複数	M14	上皮内癌診断後、 60日 以内に同側乳房の浸潤癌を認めた。 (この場合、浸潤癌を登録する)	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 本ルールは階層的であり、M1～M13が該当しない場合に適用すること。 ● このルールでは、上皮内癌と浸潤癌が同時に診断された場合を含む。 ● 組織型がNOSとその亜型の場合も適用できる。 ● これらは、同じ腫瘍の多発病変と考え、以下のように登録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断日は最も早い診断日である上皮内癌の診断日を登録する。 ・ 局在、組織型、病期、進展度は、より進展している浸潤癌の情報を優先して登録する。 (病期分類は上皮内癌の診断日時点で採用していた分類を用いる)。 ・ 初回治療情報は、各病変に対して行われた治療をすべて登録する。 ● 医師は、両腫瘍に対して、最適な治療法の選択や疫学研究上の理由から、病期分類や多重との判定を行うことがある。その場合でも本ルールを適用する。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《乳房》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M15	上皮内癌の診断後、 60日 を超えて、同側乳房の浸潤癌が 診断された。	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● M1～M14が該当しない場合に適用すること。 ● 浸潤癌と上皮内癌の両方を登録する。 ● 医師が再発あるいは増悪と記載した場合でも、「多重」として登録する。 ● 本ルールは、腫瘍再発に関する疫学研究結果に基づいている。 		
		↓いいえ		
複数	M16	上記のいずれも当てはまらない。	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 上位のルールがすべて適用できない場合のみ、適用すること。 		

多重がんルール別表

《乳房》

その1

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8550	Acinic cell ca.	Acinar adenocarcinoma Acinar carcinoma	
8200	Adenoid cystic carcinoma (ACC)	ACC Adenocystic basal cell ca. Ca. adenoides cysticum Cylindromatous ca.	
8983	Adenomyo-epithelioma w/ ca.	AME Malignant AME	
8401	Apocrine ca.		
8500	Carcinoma NST	※1 参照	Ca. w/ osteoclastic-like stromal giant cells Cribriform carcinoma Pleomorphic carcinoma
8315	Glycogen-rich clear cell ca.	Glycogen-rich ca.	Clear cell ca.
8530	Inflammatory ca.		
8314	Lipid-rich ca.	Lipid-secreting ca.	

多重がんルール別表

《乳房》

その2

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8520	Lobular ca.	Alveolar lobular carcinoma Classic lobular ca. Invasive lobular ca., alveolar type/variant Invasive lobular ca., solid type Mixed lobular ca. (lobular ca. NOS & one/more var. of lobular ca.) Invasive pleomorphic lobular ca. Solid lobular ca. Tubulolobular ca.	Pleomorphic lobular ca. in situ
8510	Medullary ca.		Atypical medullary carcinoma
8575	Metaplastic ca. NOS / of no special type (NST)	Invasive mammary ca. with matrix production Metaplastic ca., mixed epithelial and mesenchymal type Metaplastic ca. w/ mesenchymal diff. Metaplastic ca. w/ squamous feat. Metaplastic ca. w/ other types of mesenchymal diff. Mixed metaplastic ca.	Carcinosarcoma Fibromatosis-like metaplastic ca. Low grade adenosquamous ca. Metaplastic ca. spindle-cell type Metaplastic ca. w/ chondroid diff. / w/ osseous diff. Myoepithelial ca. Spindle cell ca. Squamous cell ca.

多重がんルール別表

《乳房》

その3

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8480	Mucinous ca.	Colloid carcinoma Mucinous adenocarcinoma Mucoid carcinoma	
8430	Mucoepidermoid ca.		
8982	Myoepithelial ca.		
8290	Oncocytic carcinoma		
8540	Paget disease with no underlying tumor		
8503	Papillary ca.	Intraductal papillary ca. Intraductal papillary ca. w/ DCIS Invasive papillary ca. Papillary ca. non-invasive Papillary ductal ca. in situ	Encapsulated papillary ca. / Encapsulated papillary ca. w/ invasion Intraductal papilloma w/ lobular ca. in situ or w/ lobular neoplasia Micropapillary ca. Solid papillary ca. in situ / Solid papillary ca. w/ invasion
9020/3	Periductal stromal tumor, low grade	Phyllodes tumor, malig.	
8525	Polymorphous ca.		

多重がんルール別表

《乳房》

その4

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8800/3	Sarcoma, NOS		Angiosarcoma / Hemangiosarcoma / Lymphangiosarcoma / Malig. Hemangioendthelioma Liposarcoma Leiomyosarcoma Osteosarcoma Rhabdomyosarcoma / Alveolar type rhabdomyosarcoma / Embryonal type rhabdomyosarcoma / Pleomorphic rhabdomyosarcoma
8410	Sebaceous ca.		
8502	Secretory ca.	Juvenile breast ca	
8490	Signet ring ca.		
8041	Small cell ca.	Carcinoid tumor of breast Endocrine carcinoma Neuroendocrine ca., poorly diff.	Ca. w/ neuroendocrine diff. Neuroendocrine tumor, well-diff.
8211	Tubular ca.		

多重がんルール別表

《乳房》

その4

《左列》 特異的/NOSの組織型		※1	《中列》	《右列》
コード	表現用語		左の同義語	左/中列の亜型/変異型
8500	Carcinoma NST (No Special Type)	Ca. of no special type (ductal/NST) Ca. NST w/ choriocarcinomatous feat. Ca. NST w/ cribriform feat. Ca. NST w/ melanotic feat. Ca. NST w/ signet ring diff. DCIS Duct / Ductal ca. Duct / Ductal ca. in situ Duct / Ductal ca. NOS Duct / Ductal ca. NST Duct / Ductal ca. w/ apocrine feat. Duct / Ductal ca. w/ apocrine metaplasia Duct / Ductal ca. w/ lobular feat. Duct / Ductal ca. w/ micropapillary feat. Duct / Ductal ca. w/ squamous metaplasia Infiltrating ductal ca. Invasive ca. w/ micropapillary feat. Invasive mammary ca. associated w/ encysted papillary ca. Invasive ca. not otherwise specified (ductal/NOS) Invasive ca. NST w/ metaplastic feat. Invasive ca. NST/duct w/ medullary feat. Invasive ca. w/ signet-ring cell feat. Invasive carcinoma of no special type (NST)	Ca. w/ osteoclastic-like stromal giant cells Cribriform carcinoma Pleomorphic carcinoma	

多重がんルール別表

《乳房》

その5

《左列》 特異的/NOSの組織型		※1	《中列》	《右列》
コード	表現用語		左の同義語	左/中列の亜型/変異型
8500	Carcinoma NST (No Special Type) (つづき)	Invasive ca. of no special type(NST) Invasive ca. w/ clear cell (glycogen rich) feat. Invasive ca., NST Invasive ca., type cannot be determined Invasive mammary ca. Invasive mammary ca. NST w/ lobular feat. Invasive mammary ca. NST w/ medullary feat. Invasive mammary ca. NST w/ mucinous feat. Invasive mammary ca. NST w/ tubulo-lobular var. Invasive mammary ca. w/ apocrine feat. Invasive mammary ca. w/ cribriform feat. Invasive mammary ca. w/ neuroendocrine feat. Invasive mammary ca. w/ tubular feat. Mammary ca. in situ Mammary carcinoma/cancer Non-invasive mammary ca. Comedocarcinoma Invasive ductal ca., Tubule forming type Invasive ductal ca., Solid type Invasive ductal ca., Scirrhou type Invasive ductal ca., Other type	Ca. w/ osteoclastic-like stromal giant cells Cribriform carcinoma Pleomorphic carcinoma	

※1 8500/2 あるいは8500/3となるさまざまな表現が ※1に集められている

多重がんルール別表 《乳房》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8550	腺房細胞癌	腺房腺癌 / 腺房癌	
8200	腺様嚢胞癌(ACC)	ACC 腺様基底細胞癌 腺様嚢胞性癌 類円柱癌	
8983	癌を伴う 腺筋上皮腫	AME / 悪性AME	
8401	アポクリン癌		
8500	癌腫NST	癌腫 NST 癌腫/癌腫NST w/～ w/櫛状,メラニン性,印環細胞分化 DCIS 導管癌, 導管内癌, 導管癌NST 導管癌 w/～ w/アポクリン型,アポクリン化生, 小葉性,印環細胞分化 他	8035 癌腫、 破骨細胞様間質巨細胞を伴う (浸潤性導管癌、その他) 8201 篩状癌 8022/3 多形癌
8315	Glycogen-rich clear cell ca.	Glycogen-rich ca.	Clear cell ca.

多重がんルール別表 《乳房》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8530	炎症性癌		
8314	Lipid-rich ca.	Lipid-secreting ca.	
8520	小葉癌	腺房小葉癌 古典型小葉癌 浸潤性小葉癌、腺房型 浸潤性小葉癌、充実型 混合型小葉癌 浸潤性小葉癌、多形型 充実性小葉癌 管状小葉癌	多形型小葉癌、上皮内
8510	髓様癌		非定型髓様癌
8575	化生癌、NOS 化生癌NST		癌肉腫 線維腫症様化生癌 紡錘細胞癌 他
8480	粘液癌	膠様癌 粘液腺癌 類粘液癌	
8430	粘表皮癌		

多重がんルール別表 《乳房》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
8982	筋上皮性癌		
8290	オンコサイト癌		
8540	乳頭Paget病、 深部腫瘍を伴わない		
8503	乳頭状癌	浸潤性乳頭癌 他	
9020/3	導管周囲間質腫瘍	葉状腫瘍、悪性	
8525	多形癌	粘表皮腫瘍	
8800/3	肉腫、NOS		血管肉腫 他
8410	脂腺癌		
8502	分泌癌	若年性乳癌	
8490	印環細胞癌		
8041	小細胞癌	乳腺カルチノイド 他	神経内分泌化生を伴う癌 高分化神経内分泌腫瘍
8211	管状癌		

多重がんルール《その他の部位》

	ルール番号	ルールの概要	注意点
	M1-2	腫瘍個数不明 / 単一腫瘍	
複数	M3	前立腺 腺癌	
複数	M4	網膜芽細胞腫	
複数	M5	カポジ肉腫	
複数	M6	甲状腺 乳頭癌と濾胞癌	
複数	M7	両側 卵巣上皮性腫瘍 60日以内	
複数	M8	側性が異なる	
複数	M9	大腸ポリポージス	
複数	M10	1年を超えて診断	
複数	M11-2	局在コード	
複数	M13-14	非ポリープ性腫瘍 / 複数のポリープ内癌	
複数	M15	上皮内癌→浸潤癌 60日ルール	
複数	M16	組織型の組合せ(NOS)	
複数	M17	組織型コード	
複数	M18	上記以外	